

日本消防



- 東日本大震災被災地調査報告
- 第39回消防団幹部特別研修を開催
- 都道府県における消防操法大会の結果



- 絵 第39回消防団幹部特別研修 H25.1.15 (火) ~18 (金) (勸)日本消防協会
 第12回消防団幹部候補中央特別研修 【男性団員の部】 H25.2.5 (火) ~2.7 (木)
 【女性団員の部】 H25.2.13 (水) ~2.15 (金)

巻頭言「東日本大震災後の活動」	岩手県消防協会 会長 西村 紀昭	1
日消の動き「平成25年はどうな年？」	(勸)日本消防協会 会長 秋本 敏文	2
東日本大震災被災地調査(福島県南相馬市)報告	(勸)日本消防協会	3
第39回消防団幹部特別研修を開催		7
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」	秋本敏文 日本消防協会会長 出演	9
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」	岡崎浩巳 消防庁長官 出演	11
消防団の現況(平成24年10月1日現在)		13
東西南北(福井県)「安全で安心なわがまちを目指して」	嶺北消防組合 坂井消防団 団長 松本 富男	16
東西南北(長崎県)「対馬市防災のために一致団結」	対馬市消防団 団長 宮崎 義則	18
東西南北(群馬県)「人と自然にやさしい、笑顔で暮らせるまち太田」	太田市消防団 団長 上村 勝利	20
シンフォニー(三重県)「地域の中の消防隊に…子どもからお年寄りまで」	多気町消防団 コスモス隊 隊長 岡井 一代	22
都道府県における消防操法大会の結果	(勸)日本消防協会 都道府県消防協会	24
平成24年度防火ポスター・防火防災作文コンクール表彰式	全日本消防人共済会	40
頑張れ!少年消防クラブ「西東京市消防団出初式において、救急演技披露」	西東京消防署 防災安全係 北川 里佳	41
少年消防クラブ活動に参加しませんか	消防庁 防災課	42
住宅の耐震化と家具の転倒防止について	消防庁 防災課	43
うちの名物団員		44
消防団の広場(岡山県)「私たちの町の安心・安全を守るために」	新見市東部分団 女性部 副部長 藤川 結子	46

編集後記

表紙写真説明

「勝山左義長まつり」

雪深い福井県奥越に春の訪れを告げる、伝統行事「勝山左義長まつり」。

勝山市市街地の各町に12基の櫓が建ち、その上で赤い長襦袢姿の大人たちが、三味線・笛・鉦のお囃子に合わせて滑稽な仕草で太鼓を打つ「浮き太鼓」や、カラフルな短冊による町中の装飾は日本全国で勝山だけであり、日本一の奇祭と呼ばれることもある。

ふれ太鼓を皮切りに賑やかに始まるまつりは、炎が冬の夜空を焦がすかのような「ドンド焼き」で、1年の五穀豊穡と無病息災を祈願してフィナーレを迎える。(福井県勝山市)

第39回消防団幹部特別研修

平成25年1月15日（火）～18日（金）

（財）日本消防協会



第12回消防団幹部候補中央特別研修

【男性団員の部】平成25年2月5日（火）～2月7日（木）



【女性団員の部】平成25年2月13日（水）～2月15日（金）



「東日本大震災後の活動」

岩手県消防協会 会長 西村 紀昭



一昨年の3月に発生した東日本大震災から間もなく2年を迎えようとしています。

国を挙げて復旧・復興に取り組み、仮設住宅の建設や瓦礫の処理などが進み、沿岸市町村は落ち着きを取戻しつつありますが、頻発する地震により、改めて備えの大切さや大地震の教訓が頭をよぎる毎日であります。

消防防災部門も消防屯所、消防車両、資機材も導入され強化が進んでおります。しかし、海岸に接した市街地では、防波堤も損壊したままであり、市街地の計画もまだまだ時間がかかるのではと懸念しております。

消防団は、大災害後も、火災出動や警戒活動など、昼夜を分かたずの活動となっておりますが、事業所が再開されないなど仕事がなく、やむなく内陸部へ移住する人口流出も続いている状況であり、消防団員の確保も十分とはいえません。このような中、総務省消防庁、岩手県、日本消防協会等のご支援ご協力をいただき、全国的な大きな消防防災事業を実施することができました。

消防団員の確保を目指す国の事業として「少年消防クラブ交流会」、「消防団・自主防災組織の理解促進シンポジウム」が当県で開催されました。

まず、少年消防クラブ交流会は、将来の防災の担い手である北海道から関東までの少年消防クラブ18クラブ120名の少年少女が当県に集い、被災地を視察し、教訓を学ぶとともに、ホース搬送や消火器、ロープを使用した消防防災の基本を取り入れた対抗競技など2泊3日の交流会を楽しみました。全国初の事業であり、日本消防協会、日本防火協会から全面的なご協力をいただき実施いたしました。今年は、西日本で開催できるよう計画されると伺っておりますが、防災の担い手の育成に大きく貢献するものと期待しております。次に「消防団・自主防災組織理解促進シンポジウム」についてですが、国の新規事業として全国10箇所の開催地の一つとして、当県で開催され、東北の隣県からも合わせて500名の参加いただきました。

基調講演は、前消防庁長官の久保信保氏、パネルディスカッションは、東日本大震災で活動した沿岸の市町村職員、消防団長、婦人防火クラブ代表、自主防災会代表そして従業員のうち5人が消防団員に入団している土建会社の社長さん、コーディネーターは、当県火山災害を始め、地震災害などの専門家であります元岩手大学副学長の齋藤徳美先生にお願いをいたしました。

更に、当協会では、国の緊急雇用対策事業として、「消防団活動安全強化対策事業」を受託しました。

すでに国のあり方検討会の答申も出ており、いろいろな機関でも取りまとめられておりますが、岩手県として、消防団員の命を守ることを念頭にしての災害時の安全な活動の指針作りや消防団員確保のための事業所向けのポスターやリーフレットの作成などに取組んでおります。

この指針は、90名を超える消防職・団員の殉職者を2度と出さないための指針であり、洪水や山林火災など当県で過去に発生した災害の安全対策も含めて作成を進めております。

3月に、市町村説明会を開催し、各市町村では、この指針に基づき、その市町村の特性や地域事情などを付け加えた消防団員の災害時の安全マニュアルを改正することとなっております。

このように大震災後、いろいろな全国的な事業を開催し、東日本大震災の教訓を今後の消防防災活動に生かしていくことが使命であり、住民の安全・安心に繋がるものと存じます。しかし、消防団の安全対策だけでは、到底安全を確保することはできません。市町村の地域防災計画に基づく繰り返しの訓練を通じて住民の方々自からも避難に対する迅速な行動や備えをすることは勿論ですが、消防団の活動に対する理解や住民としてやるべきことも風化させないことが重要であります。

岩手県、宮城県そして福島県は、地震津波災害や原子力災害により、過去に例をみない大きな被害を受けました。また、故郷を失った方もおりました。

この大災害を超えて住民は歩始め、消防団も住民の安全・安心のため、力の限り活動を続けており、それが住民の信頼に繋がっているものと確信しております。これまでの全国からの心温かい励ましやボランティア活動、支援活動等に感謝申し上げるとともにこれからも消防団員の意識の改革、訓練の積重ね、いつ来るか分からない災害に備える更なる万全の体制を今後も作り続けて参ります。

結びに、東日本大震災から2年になろうとしておりますが、消防団員の生命も住民の生命も守ることが基本であり、被災現場に対するあらゆる政策及び施策の実行が速急になされて消防団員が犠牲になることが二度となくなることを切望するものであります。

平成25年はどんな年？

（財）日本消防協会 会長 秋本 敏文

平成25年の最も大きなイベントは、11月25日（月）東京ドームでの消防団120年・自治体消防65周年記念大会ですが、これについては別の機会に書きます。その他いろいろあるのですが、最も大事な、基本的なことは、東日本大震災の教訓をいかした我が国消防体制の強化を着実に進めることだと思います。

大震災からおよそ2年経過して、被災地では復興の具体的な歩みを急ぐことが重要でしょう。地域社会の基盤がしっかりしなければ消防体制の強化だって進みません。東日本大震災後、他の地域での大規模な地震発生の切迫性が指摘されています。住宅等の火災は依然として頻発し、集中豪雨等による水害、思いもよらない大事故もあります。全国どこでも、あらゆる災害や事故があり得ると覚悟して対応体制をつくる必要があります。東日本大震災というつらい体験をただに、その教訓をいかし、今こそ緊急に体制を整備しなければなりません。それが殉職された多数の御霊におこたえする途でもあると思います。

日本消防協会では、そのような考え方のもと、平成24年2月、消防団を中心とする地域総合力の充実強化を主な内容とする意見を決定し、各方面に要請しました。その具体化は決して簡単なことではありませんが、平成25年も着実に一步一步進めなければなりません。消防団の装備の充実もそのひとつとして重要です。益々厳しさを増す市町村の財政事情でご苦心も多いと思いますが、元利償還に地方交付税措置がつけられる地方債の大巾な活用などによって前進させることが期待されます。

消防団員の確保対策については、初めてのやり方ですが、昨年からは全国の消防団の皆さんとご相談しながら総合的な対策をまとめることにしています。平成25年は、新たな決意のもと、全国消防団の協力を得ながら、これに基づく具体的な歩みを始める年になります。このこととも実は関連があると思うのですが、3年前からモデルクラブの指定などで支援を始めている少年消防クラブ活動については、いずれ近い内の全国大会の開催などを含めて、もっと育成支援しなければならないと思います。また、婦人防火クラブは50周年を迎え、新たな発展をめざすことになったのですが、これも地域の総合防災力の強化はもとより、消防団員確保対策についての地域の皆さんのご理解の拡まりなどからも大事だと思います。

今進めている、「消防団120年史」（近刊）の編集を通じて、今の時代は、消防の新たな時代への入口に立っているように思われてなりません。平成25年という1年が、後年ふり返って見る時に、意味のある1年であったと思われるような年にしたいものですね。

東日本大震災被災地調査 (福島県南相馬市) 報告

(財)日本消防協会

平成24年12月4日、福島県南相馬市において、東日本大震災の被害状況や消防の活動状況等について調査研究することを目的として、日本消防協会正副会長及び地震等防災対策委員会委員等による東日本大震災被災地調査を開催しました。

未曾有の大災害による被害は広範囲かつ甚大であり、復旧復興活動が続く厳しい状況下でしたが、南相馬市長をはじめとする市町村・消防関係者の協力をいただきながら調査を実施しました。

以下のとおり調査結果を報告します。

1 日時

平成24年12月4日(火) 10:00~14:30

2 場所

- (1) 現地調査 (10:00~12:00)
福島県南相馬市内
- (2) 地震等防災対策委員会 (13:00~14:30)
南相馬市役所



地震等防災対策委員会

3 調査の概要

本調査団は、南相馬市内の被害状況を確認するために、南相馬市役所から出発して原町区・小高区・鹿島区の順に現地調査を行いました。

現地調査終了後、南相馬市役所にて地震等防災対策委員会を開催して、相馬地方広域消防本部次長及び南相馬市消防団長から管内の被害状況及び活動状況の報告を受け、今後の対策について協議を行いました。

4 現地関係機関による報告内容

- (1) 相馬地方広域消防本部管内の被害状況

相馬地方広域消防本部は、相馬市・南相馬市・新地町・飯館村の4市町村を管轄しています。市町村別の被害状況は、表1から表3のとおりです。



現地調査 (みちのく鹿島球場)

表1 人的被害状況（関連死も含む）

平成24年11月1日現在 福島県発表

市町村別	死亡	重症者	軽症者	合計
相馬市	475	4	7	486
南相馬市	997	2	57	1,056
新地町	116	0	3	119
飯館村	40	0	1	41
合計	1,628	6	68	1,702

表2 消防団員の人的被害状況

平成23年8月17日現在 各市町村災害対策本部発表

市町村別	団員数	死亡	負傷者	合計
相馬市	542	10	0	10
南相馬市	1,309	9	1	10
新地町	313	1	0	1
飯館村	241	0	0	0
合計	2,406	20	1	21

表3 建物被害状況（住宅被害）

平成24年11月1日現在 福島県発表

市町村別	全壊	半壊	一部損壊	合計
相馬市	1,002	804	3,353	5,159
南相馬市	5,666	2,011	5,173	12,850
新地町	439	138	669	1,246
合計	7,107	2,953	9,195	19,255

(2) 南相馬市内の被害状況について

本調査団が現地調査を実施した南相馬市内における地区別の被害状況は次のとおりです。

ア 原町区

この地区は、津波により約15.5km²が浸水して、住民の13%にあたる121人が亡くなり、南相馬市内では最も多くの方々が犠牲になりました。

震災の前は、国道6号線から海岸方向は林になっており海岸線が見えなかったが、現在は木々がなぎ倒され、海岸線が見える状況です。

介護老人保健施設ヨッシーランドでは、利用者35人と職員1人が亡くなり、現在も1名が行方不明です。この建物は、現在も被災時とほぼ同じ状態で、敷地内には瓦礫の山が残存しています。

イ 小高区

この地区は、津波により約10.5km²が浸水しました。

震度は6弱でしたが、地盤の弱い場所では木造建物の多くが倒壊しました。

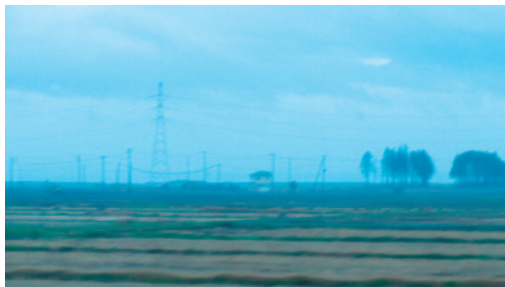
消防本部小高分署は、平成22年の3月に完成しましたが、今回の震災で地盤沈下や庁舎の亀裂が発生しています。

電気・水道・下水道は今年11月19日から概ね使用できるようになりましたが、まだ一部は使用できないところもあります。

小高区と浪江町との境界付近では、70～80cmほど地盤沈下している場所もあり、被災した消防団車両がそのままの状態に残存しています。

ウ 鹿島区

この地区は、津波により約15.8km²が浸水しました。



6号線から海岸線方向の様子

海岸から約2km離れた場所まで漁船が流されています。

避難場所に指定されている「みちのく鹿島球場」は、海岸から約2km離れていますが、グラウンドに避難していた人達を津波が襲い、10人が犠牲になりました。

同じく避難場所に指定されている「南海老グラウンド」は海拔20m以上あると思いますが、避難した約40人のうち11人が津波の犠牲になりました。

(3) 福島第一原子力発電所の事故概要と消防の対応

発災時、1号機から3号機までは運転中で、4号機から6号機までは点検中でした。

3月12日5時44分に10km圏内避難指示、15時36分に1号機が水素爆発を起こし、18時25分に20km圏内避難指示、3月14日11時01分に3号機が、3月15日6時頃に2号機・4号機が水素爆発をおこしたため30km圏内が屋内待機となりました。

このような状況になり、南相馬市内の30km圏内にいる入院患者と老人ホーム等の入所者で救急車による搬送が必要な人を搬送しました。また、4箇所の救急指定病院では国の方針により入院不可能となり、医師やスタッフも避難していることから、一時救急患者の収容率が6パーセントまで落ち込みました。

20kmに位置している小高分署は14日に本署へ機能移転しました。放射能対策資機材の不足もあって捜索活動も遅れまし



介護老人保健施設「ヨッシーランド」

た。その中で、放射能という見えない脅威に職員の心中は不安で一杯だったはずですが、この困難を乗り越えようとする強い意気込みで誰一人として職場を離れる職員はいませんでした。

住民の避難状況について、南相馬市は当時72,000人のうち約50,000人が避難したと言われています。飯館村は全村避難のため約6,000人が村外に避難しました。現在は両方で約25,000人が避難しています。

除染については、住宅と生活環境の部分を平成24年と25年で行い、その後、農地を5年かけて行いますが、山林については定まっていません。

(4) 消防活動について

ア 相馬地方広域消防本部の活動

初動対応として、3月11日14時48分に対策本部を設置し、14時49分に大津波警報を発令、14時35分に津波の第1波を確認、15時50分に相馬駿潮所で波高9.3mを観測しました。16時30分に緊急消防援助隊を要請、16時46分には自衛隊災害援助隊を要請しました。

初期活動として、地震あるいは津波の警戒調査、広報、情報収集、被害調査を行いました。発災から同日0時までの災害出場関係については、火災出場5件、救急出場33件、救助出場24件、油流出対応1件でした。

発災から6月17日までの行方不明者捜索については、延べ3,333人が活動しました。



小高区と浪江町との境界付近



みちのく鹿島球場

職員の参集状況については、当日の勤務人員は53名で、非番員と公休などを合わせて91名が参集しました。

イ 南相馬市消防団の活動

団の組織は区団制になっており、原町区団・小高区団・鹿島区団の3区団で構成されています。

発災直後は、ほとんどの団員が大津波警報発令に伴い避難広報活動を行い、各地区の持ち場で人命救助などの初期活動を行いました。3月11日の夕方に分団長以上の幹部を災害対策室に集めて、状況確認と明日よりの搜索活動及び消防活動の打合せを行いました。

行方不明者の搜索活動については、警戒区域に指定された小高区団の大半の団員が避難をし、搜索解除後合わせて500名、原町区団2,550人、鹿島区団2,000人、延べ団員5,050人が5月の連休まで2ヶ月間にわたり過酷な条件下で活動を行いました。

搜索活動により発見されたご遺体の搬送は、警察車両の数が足りず、団の積載車を使用して高校の体育館まで搬送しました。

その他の消防活動として、搬送されたご遺体の洗浄を警察官と共に小型ポンプを利用しシャワー状態にして行いました。被災地の住民の安否確認、倒壊家屋の調査、ガソリンスタンドの交通整理、小型ポンプによる貯水池の排

水作業、避難住民からの家庭の安全確認の依頼（ガスの元栓、電気器具）、搜索活動終了後に防火防犯啓蒙活動を行いました。

搜索活動に困難を期したのは、南相馬市が警戒区域、屋内退避区域、30km外区域に区分され、自衛隊の出動も遅く、建設協会の重機の出動も遅くなったためです。

屋内退避として緊急時避難準備区域指定を受けながらも2ヶ月間も搜索活動が出来たのは、多くの行方不明の方々を1日でも早く、一人でも多くご家族の皆さんにお届け出来るよう、その一心で消防活動を行ったからです。

(5) 今後の対策について

今回の消防団活動における問題点としては、団員個々の活動状況や安否の確認ができていなかったことが挙げられます。今後の対策として、トランシーバー等の情報を伝達するための資機材を整備することが最も重要です。

常備消防と消防団の統合的な指揮・命令系統について、当管内の場合、常備消防は広域消防になっているのに対して、消防団は市町村ごとに組織されているので、情報の共有化をどのようにしていくかが大きな問題となりましたが、まだ具体的なマニュアルができていません。今後、4市町村の中で方向性を見いだしていかなければなりません。

第39回消防団幹部特別研修を開催

平成25年1月15日（火）から18日（金）までの4日間、日本消防会館において、各都道府県の消防団長及び副団長の中から推薦された47名が出席し、「第39回消防団幹部特別研修」を開催しました。

研修では、当協会秋本会長の「講話」をはじめ、消防法制などの知識を習得する「消防行政」「防災対策」、消防管理について学ぶ「消防団実務」「火災防ぎょ」「惨事ストレス対策」、東日本大震災の発生を踏まえ、「消防団活動事例」や災害対応能力の向上と活性化を図るために「災害情報」、図上訓練の実施方法等を紹介した「危機管理」など、様々な内容の講義を実施しました。

視察研修としては、「消防庁危機管理センター」や「東京消防庁第六方面消防救助機動部隊（ハイパーレスキュー）」を訪れ、今後重要となってくる消防団の幅広い活動の一部である救助活動に関

する資機材などを見学しました。

また、5つのテーマごとに班別に分かれて実施した課題研究討議では、消防団の活動状況や直面している諸問題について活発な議論が交わされ、最終日には、班ごとに討議内容についての発表を行いました。

あわせて研修を通じ地域を越えた交流が図られました。

【課題研究討議のテーマ】

- ・市町村合併及び常備消防広域化に伴う消防団運営の課題について
- ・サラリーマン団員の増加に伴う効果的な活動対策について
- ・消防団員の確保対策について
- ・災害活動事例を通じた現場活動の問題点と安全対策について
- ・大規模災害時における消防団活動について



岡崎消防庁長官あいさつ



研修風景



東京消防庁第六方面消防救助機動部隊視察



課題研究討議

第39回消防団幹部特別研修 日程表

◇第1日目

時 間	時間数	科 目	講 師
12:00～13:00	60	受 付	
13:00～13:20	20	開講式リハーサル	事務局
13:25～14:00	35	開講式・記念撮影	
14:10～14:40	30	オリエンテーション	事務局
14:40～15:30	50	会長講話	日本消防協会 会長 秋本 敏文
15:40～17:00	80	課題研究討議	事務局

◇第2日目

時 間	時間数	科 目	講 師
9:00～9:20	20	視 察 消防庁危機管理センター	
9:20～10:00	40	消防行政	消防庁 次長
10:10～11:00	50	防災対策	消防庁 国民保護・防災部
11:00～11:20	20	移 動	
11:20～12:10	50	課題研究討議	事務局
12:10～13:00	50	昼 食	
13:00～13:50	150	危機管理	Blog防災危機管理トレーニング 日野宗門
14:00～14:50			
15:00～15:50			
16:00～16:50	50	日本の救急医療の問題点	聖路加国際病院 理事長 日野原 重明

◇第3日目

時 間	時間数	科 目	講 師 ・ 摘 要
9:00～9:50	50	消防団活動事例	宮城県東松島市消防団 前団長
10:00～10:50	50	災害情報について	静岡大学防災総合センター 牛山 素行
11:00～11:50	50	消防団実務	東京消防庁 防災部
12:00～13:00	60	昼 食	
13:00～13:50	50	火災防ぎょ	東京消防庁 警防部
14:30～17:00	150	視 察 東京消防庁 第六方面消防救助機動部隊	

◇第4日目

時 間	時間数	区分・科目	摘 要 ・ 講 師
8:50～10:00	70	惨事ストレス対策	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 松井 豊
10:10～12:00	110	課題研究発表	消防庁 国民保護・防災部
12:00～12:40	40	昼 食	
12:40～12:55	15	閉講式リハーサル等	事務局
13:00～13:30	30	閉講式	

ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」 秋本敏文 日本消防協会会長 出演

山本アナ：昨年の5月末に11代会長に就任ということで半年が過ぎましたが、会長のお仕事はいかがでしょうか

秋本会長：私は日本消防協会の理事長を8年程やらせていただきまして、そして、今会長という事になっているんですが、本当に責任の重さは比較にならないという感じています。もともと日本消防協会は前身の大日本消防協会から数えますとおよそ110年の歴史を持っておりまして、そしてまた、日本消防協会を構成しているメンバーの方々は、消防団員、消防職員などおよそ100万人という大変大きな組織でありますので、その社会的な影響なども考えますと、大変責任が重いと実感しております。



山本アナ：日本消防協会が今抱えている課題というものを教えてくださいませんか。

秋本会長：基本的には東日本大震災の経験を経て、そして、また今、三連動、あるいは首都直下型とか大きな地震の発生が心配されています。そういう中で、消防防災体制をどのようにして作っていくか、その中で、地域の総合防災力といったもの、女性も子供さんも含めて、地域の皆さん、そしてまた、企業とか各種の団体とか、学校とかありとあらゆる方々が一緒になって普段から災害のことを勉強し、そして訓練をし、いざというときは一緒になって地域の総合的な防災力を高めることが今課題であろうと思います。

そのなかで、消防団は特に地域の仲間でもありますので大変大きな役割があると思いますし、そしてまた、消防団自身も火事は消す、それから救助活動ですね、そういうような活動も求められます。ただそのためには、消防団は装備が非常に不十分ですので、装備の改善をしていくことが大きな課題であろうと思います。

山本アナ：消防団を取り巻く課題の中で、大きな課題だと思えますのは団員の確保ですよ

秋本会長：そうですね、全国的には数が減少する傾向にあって、とうとう90万人を切るという事になっております。それで、日本消防協会では消防団員確保のための総合的な対策について、全国の消防団員の皆様方と相談しておりまして、議論の素材になるようなものをお配りして、みなさん意見を言ってくださいということをしております。これについて

もなんとかもう少しまとまった形にして、9月頃には決定をして、各方面に改めてお願いをしていきたいと思っております。ただお願いするというだけではなくて、消防団自身として考えていかなければならないこと、例えば、地域の中で消防団がいかに大事かと言うことを、地域の人たちともっとふれあうことによって、皆さんに実感してもらうようにするとか、消防団としても努力をしていく、というようなことも必要かと思えます。

山本アナ：そして、今年の11月には大きな事業がまっているそうですね

秋本会長：今年は自治体消防という現在の仕組みが第二次大戦後にできまして65周年、そしてまた、消防団の前身は消防組と申しますが、全国的に統一した姿でスタートしたのが明治27年の消防組規則というものなのですが、それから数えましてちょうど120年目、それら2つ合わせまして、11月には東京ドームで3万数千人の方々に集まってもらって、記念の行事をやろうと思っております。

山本アナ：11月25日月曜日、東京ドームですね

秋本会長：その時は式典もやりますけども、それだけではなくて、歴史、そしてこれからの消防の姿を目の前で実感していただけるように、100年前の腕用ポンプを使って水を出すとかそういうようなものも併せてやっていきたいと思えます。

山本アナ：ほかにも消防団が120年という事で考えていることはございますか

秋本会長：どういう歴史をたどってきたかという事を、一つは映像で、あるいはあまり大きくはないですけども、中身のきっちり詰まった本をつくってそれらをお配りすることにしています。

山本アナ：120年史のようなものですね

秋本会長：120年史を、いろんな形でご理解いただくように、歴史をたどるようなカレンダーも皆さんに使っていただきたいと思っております。

山本アナ：最後になりますが、これからの日本消防に向けての決意表明を会長からなさって頂きたいのですが

秋本会長：日本全国それぞれの事情があり、そしてまた、消防団の皆さん方のお考えもあり、それらを良く聞きながら、そして、世界の消防も同じような課題を抱えておりますので、そういう世界の消防の状況なども見ながら、国民の皆様の生命財産を守っていけるように、体制をさらに強化するように努めたいと思えますが、その中で消防団の存在、役割はものすごく大きいと思えます。自分たちの地域は自分たちで守るといふ、その気持ちの尊さ、強さそしてそういう方々が活動して頂いていることによる地域の安全は、まさにこれからの大事な基本だと思えます。わたしも日本消防協会はそういう消防団を中心とする我が国の消防体制強化に努力していきたいと思えます。

ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」 岡崎浩巳 消防庁長官 出演

山本アナ：まずは消防団の安全対策ですが…東日本大震災を受けて、どのように取り組まれていますか？

岡崎長官：東日本大震災では、皆様ご存じのとおり、数多くの尊い命が奪われました。消防団員においても、254名の方々が犠牲になったことは、大変痛ましいことと思っており、謹んでご冥福をお祈りいたします。



私ども消防庁としては、東日本大震災を踏まえ、消防団員のあり方を再検討するため、昨年来、学識経験者や被災地の消防団の方々を委員とした検討会を設けて、大災害時における消防団活動のあり方について検討し、本年3月には安全対策を中心とした中間報告をとりまとめました。検討会においては、震災発生時の消防団活動が、地震発生直後の水門閉鎖から住民の避難誘導など、限られた時間の中で大変多岐にわたっていたことが明らかになりました。

消防庁では、消防団員の津波災害時の退避ルールの確立などについて安全管理マニュアルの整備を要請するとともに、補正予算による補助金によってライフジャケットやトランシーバーなどの消防団の安全装備の整備を進めました。

また、今年9月から、全国47都道府県において、消防団の幹部や指導的立場の方々に対して、安全対策を中心とした研修会を行っています。

さらに、凄惨な現場において長期間の活動を余儀なくされた消防団員に、トラウマなどの惨事ストレスの発生が危惧されたことから、精神科医などの専門家を現地に派遣し、講義や面談を行うなど、消防団員のストレスケアに努めています。

山本アナ：そして消防団と言えば、団員の減少も大きな問題と伺っていますが…

消防庁として、今後どのような対応を？

岡崎長官：全国の消防団員の数は、平成2年に初めて100万人を割り込み、その後も毎年減少し、平成23年にはおよそ88万となっています。特に20代の団員数の減少が大きくなっています。一方で、近年、全国で毎年のように大きな災害が発生していますが、その度に全国からボランティアの方々が被災地に駆けつけ、積極的に活動されています。そのような「人のために役立ちたい」という多くの人々の気持ちを消防団活動に繋げられるよう、「消防団

の良いところ」をアピールし、入団促進を行っていきたくと考えています。具体的には、消防庁では、毎年1月から3月の3ヶ月間を特に入団促進キャンペーン期間とし、マスメディアや様々な行事などを通じて、若者や女性を中心にさらに一層入団を呼びかけていきます。

また、近年、消防団員の被雇用者率の上昇、いわゆるサラリーマン化が顕著に見られています。日頃の消防団活動には、勤めている会社などの理解が欠かせません。消防庁では、地方公共団体と連携しながら、消防団活動に理解を示し積極的に協力している事業所等を認定する制度である「消防団協力事業所表示制度」を平成18年度から進めています。

また、長野県や静岡県などでは、消防団協力事業所に対し、県の事業税を減税するという取り組みも行われています。

山本アナ：東日本大震災では、これまで以上に地域の防災力の向上が課題となったようですが…

消防団は、今後、地域とどのように関わっていくべきでしょうか？

岡崎長官：災害が発生した時は、国民の皆さんそれぞれが、まず「自らの命は自らで守る」というのが基本です。その後、自分の身の安全が確保できたら、ご近所さんと助け合い、それでも足りない時には、公的機関からの助けを待つことになります。消防団は、普段、他に職業などを持っている方々ですが、災害時には消防本部などと一緒に消火・救助活動などにあたります。つまり、ご近所さんであると同時に、公的機関でもある側面もっております。大規模災害時は、消防本部などの活動には限度があります。地域に密着して活動を行っている消防団の方々が、自治会などを中心とした地域の自主防災組織の方々と連携し、地域ぐるみで取り組むことが極めて重要になると思います。

消防庁としては、消防団や自主防災組織への理解促進を図ることを目的としたシンポジウムを、本年9月から来年2月にかけて、全国10カ所で開催しています。

山本アナ：東日本大震災の教訓は、これから先、様々な形で伝えていかななくてはならないと思いますが、その点について、消防庁としてどのような取り組みを行っていきますか？

岡崎長官：消防庁では、将来の地域防災の担い手を育成するため、少年消防クラブの活動に力を入れているところです。

また、来年度から、東日本大震災の体験や教訓を伝承するため、被災地の消防団員や婦人防火クラブの皆さんなどを語り部として全国に派遣する取り組みを進めていきたいと考えています。

山本アナ：最後に、全国で頑張っている消防団員の皆さんにメッセージをお願いします

岡崎長官：全国の消防団員の皆さん、消防庁長官の岡崎浩巳です。いざという時には団員として、「自分たちのまちを、自分たちの手で守る」という使命感のもと、一致団結してご活躍いただいていることに、あらためて敬意と感謝を申し上げます。そして、消防団員を支えているご家族の皆さま方にもお礼を申し上げます。これからも、消防団の使命を果たすため、自らの命、家族の命を大切にし、そして、一人でも多くの住民の命を守るため、力を合わせて取り組みましょう。宜しくお願い致します。

消防団の現況（平成24年10月1日現在）

※東日本大震災の影響により、平成23年の福島県内の一部の消防団については発災前の数値としている。

1 消防団数の動向

消防団の数は、市町村合併に伴う消防団の統合などにより、全国的に減少が続いているが、減少数については年々低下する傾向にある。

平成18年度は2,552団であったのに対し、平成19年は2,457団（前年度より95団減少）、平成20年は2,361団（同96団減少）と年に100団近く減少した

が、その後、平成21年、2,312団（同49団減少）、平成22年、2,276団（同36団減少）平成23年、2,259団（同17団減少）、と減少数は年々低下している。平成24年は2,234団（同25団減少）と前年度よりも減少数は増加したが、ほぼ横這いであり、市町村合併に伴う消防団統合は落ち着いてきていると推測される。【表1】

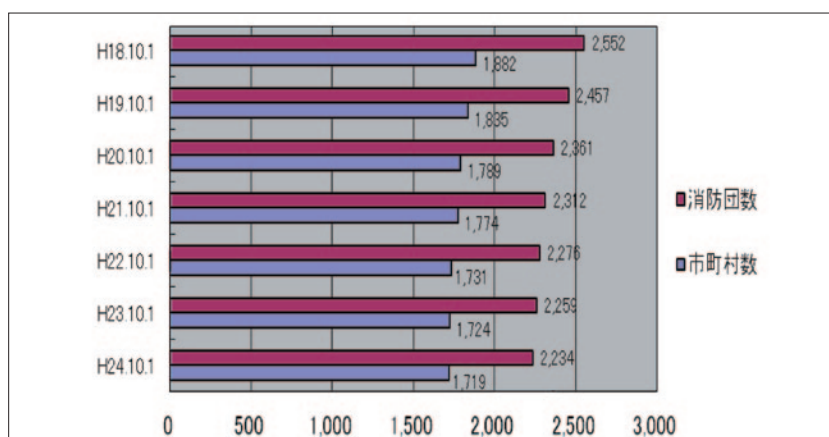


表1 市町村数及び消防団数の推移（日本消防協会調べ）

2 消防団員数の動向

消防団員数は、社会環境の変化（少子高齢化による若年層の減少、就業構造の変化、地域社会への帰属意識の希薄化等）から減少が続いている。

平成18年から平成22年までの状況を見ると、平成18年、900,650人、平成19年、895,294人（前年より5,356人減少）、平成20年、891,293人（同4,001人減少）、平成21年、888,662人（同2,631人減少）、平成22年、886,457人（同2,205人減少）と、減少数は徐々に低下する傾向がみられた。これは、消防団数の減少が低下してきたこと、また、積極的な入団促進の取り組みが成果を出してきたことなどが背景として考えられる。

しかし、平成23年は東日本大震災の影響により、殉職や生活基盤を失うなどの環境の変化によって東北地方の減少数が増加したことや、市町村合併

に伴う消防団の再編による減少などにより、881,638人（同4,819人減少）となった。【表2、表3】

今回、平成24年は、876,841人（同4,797人減少）であり、ほぼ前年と同程度の減少数である。都道府県別に見ると、特定の数県において相当多数の減少が見られた。【表2、表3】

平成23年に続き平成24年も相当大幅な減少となった要因の一つには、被災地における東日本大震災の影響がまだまだ少なくないことがあげられるが、全国的には若年層を中心とした地域の人口減少や市町村合併に伴う消防団の再編、団員の活動実態を考慮した減員があると思われる。

一方、全体として減少傾向にある中で2県は前年同数、7県（前年12県）は増加となっている。その主な要因としては、団員確保のための粘り強い努力のなか、女性消防団員の新規採用や消防団

OBなどの機能別消防団員の採用などがあげられる。
 定員に対する充足率は、平成24年10月1日現在93.5%であり、平成23年（93.8%）と比較し0.3ポイント低下した。【表4】

3 女性消防団員

女性消防団員は、平成24年は20,512人であり、依然として増加は続けているものの、増加数については平成21年（1,290人）をピークに低下傾向にあり、平成24年は、525人の増加となっている。また、女性消防団員を採用している消防団の割合は57.6%（前年55.6%）となっている。

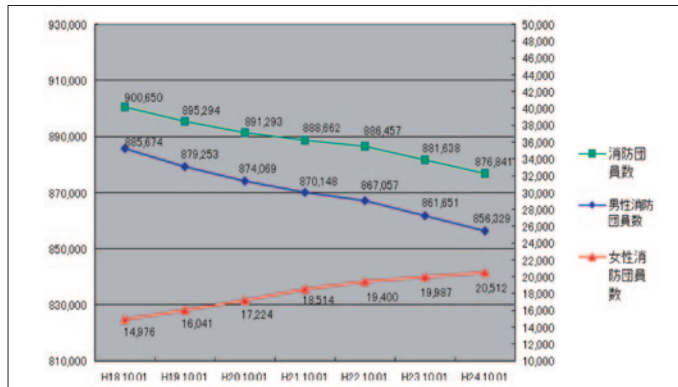


表2 消防団員数推移（日本消防協会調べ）

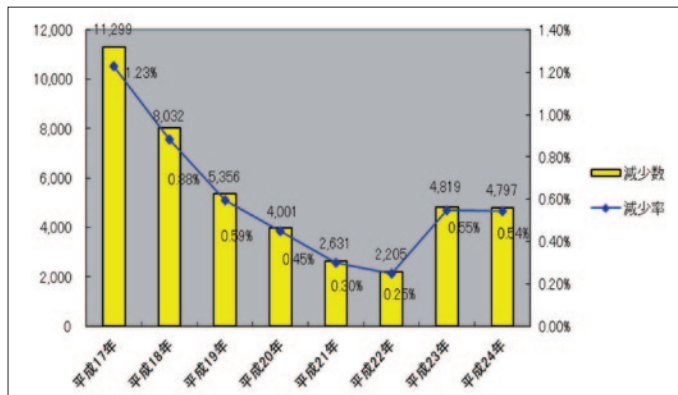


表3 消防団員数減少数及び減少率の推移（日本消防協会調べ）

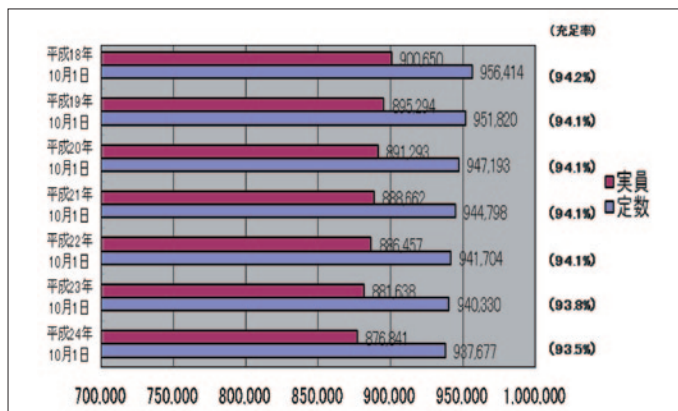


表4 消防団員数充足率の推移（日本消防協会調べ）

都道府県別市町村数、消防団数及び消防団員数

(付表1)

	市町村数			消防団数			消防団員数				
	H23.10.1	H24.10.1	増減	H23.10.1	H24.10.1	増減	H23.10.1	H24.10.1	増減	増減率	
北海道	179	179	0	208	207	△ 1	26,370	26,261	△ 109	-0.4%	
東北	青森	40	40	0	42	41	△ 1	19,886	19,741	△ 145	-0.7%
	岩手	33	33	0	33	33	0	23,124	23,002	△ 122	-0.5%
	宮城	35	35	0	48	42	△ 6	21,313	21,129	△ 184	-0.9%
	秋田	25	25	0	32	32	0	17,951	17,793	△ 158	-0.9%
	山形	35	35	0	35	35	0	26,052	25,993	△ 59	-0.2%
	福島	59	59	0	59	59	0	35,147	34,852	△ 295	-0.8%
	新潟	30	30	0	30	30	0	39,245	39,132	△ 113	-0.3%
関東	東京	40	39	△ 1	98	98	0	24,566	24,331	△ 235	-1.0%
	神奈川	33	33	0	63	59	△ 4	18,446	18,170	△ 276	-1.5%
	埼玉	64	63	△ 1	71	67	△ 4	14,356	14,386	30	0.2%
	群馬	35	35	0	35	35	0	11,958	11,942	△ 16	-0.1%
	千葉	54	54	0	48	48	0	27,229	27,213	△ 16	-0.1%
	茨城	44	44	0	44	44	0	24,401	24,244	△ 157	-0.6%
	栃木	26	26	0	32	32	0	15,097	15,042	△ 55	-0.4%
	山梨	27	27	0	27	27	0	15,441	15,343	△ 98	-0.6%
	長野	77	77	0	77	77	0	36,353	35,988	△ 365	-1.0%
中部	福井	17	17	0	18	18	0	5,702	5,690	△ 12	-0.2%
	石川	19	19	0	23	23	0	5,352	5,356	4	0.1%
	富山	15	15	0	15	15	0	9,657	9,644	△ 13	-0.1%
	三重	29	29	0	29	29	0	14,026	14,016	△ 10	-0.1%
	愛知	57	54	△ 3	342	341	△ 1	24,147	23,699	△ 448	-1.9%
	静岡	35	35	0	35	35	0	21,227	21,140	△ 87	-0.4%
	岐阜	42	42	0	46	46	0	21,248	20,973	△ 275	-1.3%
近畿	京都	26	26	0	55	55	0	18,458	18,175	△ 283	-1.5%
	大阪	43	43	0	43	43	0	10,532	10,532	0	0.0%
	兵庫	41	41	0	62	62	0	44,224	44,086	△ 138	-0.3%
	奈良	39	39	0	39	39	0	8,686	8,597	△ 89	-1.0%
	滋賀	19	19	0	19	19	0	9,378	9,291	△ 87	-0.9%
	和歌山	30	30	0	34	30	△ 4	11,972	12,024	52	0.4%
	中国	鳥取	19	19	0	19	19	0	5,187	5,193	6
島根		19	19	0	19	19	0	12,699	12,640	△ 59	-0.5%
岡山		27	27	0	27	27	0	29,004	29,010	6	0.0%
広島		23	23	0	30	30	0	22,504	22,537	33	0.1%
山口		19	19	0	19	19	0	13,595	13,539	△ 56	-0.4%
四国	徳島	24	24	0	27	27	0	11,096	11,067	△ 29	-0.3%
	香川	17	17	0	17	17	0	7,719	7,684	△ 35	-0.5%
	愛媛	20	20	0	20	20	0	20,918	20,668	△ 250	-1.2%
	高知	34	34	0	38	38	0	8,220	8,220	0	0.0%
九州	長崎	21	21	0	21	21	0	20,807	20,635	△ 172	-0.8%
	福岡	60	60	0	77	77	0	25,505	25,335	△ 170	-0.7%
	大分	18	18	0	27	27	0	15,847	15,787	△ 60	-0.4%
	佐賀	20	20	0	28	28	0	19,616	19,555	△ 61	-0.3%
	熊本	45	45	0	45	45	0	34,788	34,654	△ 134	-0.4%
	宮崎	26	26	0	30	26	△ 4	15,248	15,228	△ 20	-0.1%
	鹿児島	43	43	0	43	43	0	15,699	15,651	△ 48	-0.3%
	沖縄	41	41	0	30	30	0	1,642	1,653	11	0.7%
合計	1,724	1,719	△ 5	2,259	2,234	△ 25	881,638	876,841	△ 4,797	-0.5%	



「安全で安心な わがまちを目指して」



嶺北消防組合 坂井消防団 団長 松本 富男

1. 嶺北消防組合構成市の紹介

当組合は、2011年「都道府県幸福度ランキング」1位に輝いた福井県の北端にあたり、あわら市、坂井市の2市で構成されています。また、中でも坂井市は2012年「住みよさランキング」3位に輝くなど、とても恵まれた環境となっています。

特徴としては、西部には暴れ川と呼ばれた九頭竜川、北部に竹田川の各河川が流れ、河口部分には古き町並みと北前船交易で繁栄した、全国的にも珍しい「みくに湊」があり、四季を通して「越前がに」や「甘エビ」など漁港として県下屈指の漁獲を水揚げしています。平野部では、古代より坂井平野として広大な農業地帯として発展し、「コシヒカリ」や「華越前」などのブランド米が収穫されるほか、丘陵地の「果実」「野菜」、砂丘地の「らっきょ」など数々の特

産品を生み出しています。

観光の分野では、構成市のうち坂井市には、日本最古の天守閣「丸岡城」をはじめ、日本随一の奇勝として名高い「東尋坊」などの観光名所があり、また、あわら市においても福井屈指の温泉街である「あわら温泉」が存在し、坂井市、あわら市の両市を合わせ、観光地の主役として年間300万人以上の観光客が訪れています。

2. 消防団のあゆみ

嶺北消防組合の消防団は、合併前にそれぞれの町で構成された6つの消防団が組織されていましたが、市町村合併により再編されました。

○嶺北消防組合あわら消防団

平成16年3月、金津町と芦原町が合併し、あわら市となり消防団の名称は、嶺北消防組合あわら消防団となりました。条例定数は264名で第1分団、2分団、9分団、10分団（旧芦原町消防団）第3分団から8分団（旧嶺北消防組合金津消防団）の10個分団に組織変更され現在に至っています。

○嶺北消防組合坂井消防団

平成18年3月、三国町、丸岡町、春江町、坂井町が合併し坂井市となり、消防団の名称は嶺北消防組合坂井消防団となりました。条例定数は509名で第1分団から6分



高演技披露



消防操法大会

団（旧丸岡町消防団）第7分団から11分団（旧嶺北消防組合春江消防団）第12分団から第15分団（旧嶺北消防組合坂井消防団）第16分団から26分団（旧三国町消防団）の26個分団に組織変更され現在に至っています。

3. 消防団の活動状況

昭和23年、福井平野の直下を震源とするマグニチュード7.1の地震をもたらした福井地震を始め、幾多の豪雪被害や集中豪雨、平成9年のナホトカ号重油流出事故など多くの自然災害や事件、事故が発生するたびにそれぞれの地域に根ざした個性ある消防団が一致団結しこれらの災害に立ち向かい乗り越えてきました。

中でも、昭和56年の嶺北地方を中心に発生した集中豪雨では、堤防の決壊や床上床下浸水など記録的被害が発生、金津、芦原、三国、丸岡、春江、坂井6町それぞれの消防団は全団員が出動して、土のうの作成や土のう構築など昼夜をとおしての水防活動に従事し、被害を最小限に食い止めたことは、地域防災のために日々丸となって献身的に努力してきた結果と思います。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災後は、地域の安心・安全のため、市民と消防団が連携した津波避難訓練などを積

極的に行い、地域と消防団が共にふれあいながら共同で減災活動に努めたことは、消防団に対するより一層の信頼が深まったと思います。

一方、災害に立ち向かうハード面とは別に地域防災・減災をソフト面からカバーするため、平成21年に女性消防団を発足し、現在26名で各地域で防災・減災活動に努めています。

また、女性消防団員全員が応急手当指導員の資格を取得、地域のみならず学校、事業所などの応急手当指導や広報活動など、女性ならではのソフト面を活かしながら活躍しています。

4. おわりに

結びに、住民の安全を脅かす災害は後を絶たず、各種自然災害や犠牲を伴う火災が相次いで発生するなど、安全に対する関心は一層高まっています。嶺北消防組合消防団も「あわら市」「坂井市」発足で管轄区域もより広域的となりましたが、安全で安心な地域社会を目指し、先人達の築いてこられた伝統と精神を守り、市民に愛される消防団として最大限の努力を配し、積極的に活躍していきたいと考えています。



水防訓練



「対馬市防災のために 一致団結」



対馬市消防団 団長 宮崎 義則

1. 対馬市の紹介

対馬市は、長崎県に属し1島1市の離島で、九州本土と朝鮮半島の間の玄界灘に位置しています。

面積約709km²、東西約18km、南北に約82kmと細長く、山林が9割を占め急峻な山肌が海岸まで続き、島の中央に位置する浅茅湾は、瀟谷を形成する風光明媚な観光スポットであり、最近、韓国から年間15万人を超える観光客が空路、海路により来島するなど活況を呈しています。又、真珠・マグロの養殖やシーカヤックフィールドとしても有名です。



夏季訓練

2. 対馬市消防団の概要

対馬市消防団は平成16年3月1日に上対馬町、上県町、峰町、豊玉町、美津島町、巖原町の6町の合併に伴い新たに発足しました。

各町を地区として、それぞれ地区本部と筆頭副団長を置き、団長の事前命令により各地区内で発生する各種災害に対処しています。

分団数90分団、運用資機材は指令車5台、消防ポンプ自動車20台、小型動力ポンプ付積載車112台を配備し、団員1641名



操法

が活動しています。

3. 対馬市消防団の活動

消防団の活動は、消防出初式にはじまり、全分団が行う年末年始の夜警、火災を想定した基本訓練はもとより、普通救命講習の受講、各地区で連携した実戦訓練や中継送水訓練、礼式訓練、常備消防との合同訓練等を行っています。

火災、台風や集中豪雨による風水害、行方不明者の捜索など多様な活動を行い、組織の強化と団結を深めるため、各地区分団長会議を年2回、全分団長会議を年1回行っています。

また、平成24年度長崎県消防ポンプ操法大会でポンプ車操法の部で準優勝、小型ポ



出初め式

ンプの部が5位という成績を収めました。

県大会出場権を獲得できなかった分団もポンプ操法の訓練を通して、消防人としての組織の大切さ、家族を含めた地域住民の応援協力等のありがたさを感じていました。

4. おわりに

近年、全国各地で甚大な自然災害や地震が頻繁に発生し、不安や危険に脅かされています。このような各種災害に対応できるよう知識の向上と訓練を重ね技術のレベルアップを図り、有事の災害に備えています。

「自分達の地域は自分達で守る」を合い言葉に、地域防災に取り組み安心して安全な街を目指し、防災の防人として一致団結してまいります。



操法結団式



「人と自然にやさしい、 笑顔で暮らせるまち太田」 の安心・安全を目指して



太田市消防団 団長 上村 勝利

1. 太田市の紹介

太田市は、平成17年3月28日に太田市、尾島町、新田町、藪塚本町が合併し、人口21万人を超える新市として誕生しました。

東毛の中核都市として発展を遂げ、平成19年4月から特例市として更なる飛躍を目指し、新たな一歩を踏み出しています。

太田市は、関東平野の北部、群馬県南東部に位置し、南に利根川、北に渡良瀬川という二つの豊かな水量を誇る河川に挟まれた地域にあります。東京から北西へ約86kmの距離にあり、人口は約22万人、面積約176km²、市街地北部に標高239mの金山と、それに接続する八王子丘陵が走るほかは概ね平坦地となっています。また、太田市は豊かな自然と歴史や文化、充実した医療環境、北関東屈指の工業生産及び県内有数の農業生産を誇り、調和のとれた都市環境を有するまちで、平成24年7月1日の再生可能エネルギーの固定価格買取制度の施行に合わせ、自治体単独としては全国初のメガソーラー「おおた太陽光発電所」による発電を開始し、低炭素社会の実現に向けて、太陽光発電を活用した新たなまちづくりを進めています。

毎年元旦に全国放映されている「全日本



消防出初め式 分列行進

実業団対抗駅伝競走大会（通称：ニューイヤ－駅伝）」が開催されこの太田市を中継地として通過し、今回地元スバルが初めて第6位入賞を果たしました。今日では、若年層から老人までスポーツが大変活発となっています。

2. 太田市消防団の沿革・概要

当市消防団の歴史は、明治27年各地域に消防組が成立したことから始まり、時代の流れと共に警防団、消防団と名称を変え、平成17年には周辺町村との合併により現在では、16分団、34個部、団員数700名（定員）で構成されています。装備面では消防ポンプ車30台、水槽付き消防ポンプ車5台、救助資機材搭載車（可搬ポンプ付き）1台を



平成24年度太田市消防団消防ポンプ操法競技大会を実施

配備し、市民の生命及び財産を守るため、日夜活動を行っています。

施設では、施設整備計画に基づき計画的に車庫詰所及び消防ポンプ自動車の整備や安全対策用品の支給など活動環境の整備を行っています。

活性化対策として、女性消防団の入団に力を注ぎ、現在17名が在団し、消防団の活性化及び団員の士気の高揚に努めています。

3. 太田市消防団の概要

当市消防団の活動は、火災や水害等の災害はもちろんですが、通常の活動は、副分団長以上の役員会議において年間計画が決定し、その計画に基づいて活動をしています。主な活動として、4月の辞令交付式、新入団員教養訓練に始まり役員研修視察を実施し、6月にはポンプ操法大会、7月・8月各種夏祭りや花火大会の警備や市総合防災訓練や水防訓練、10月には秋季検閲、11月には模擬火災訓練、スポレク祭などでの消防団PR、12月には歳末特別警戒、1月には出初め式や文化財防火デーに伴う火災防ぎょ訓練、3月には模擬火災訓練など、1年を通じ様々な行事を行っています。ま

た、定期的に普通救命講習会を受講する活動やどんど焼き・お祭りの警備など地域に密着した活動を展開しています。

4. おわりに

現在、全国的な課題でもあります消防団員数の減少が懸念されているところですが、当市消防団も団員確保に苦慮しているのが現状です。このため、太田市では女性消防団員や学生の消防団に対する積極的な入団の働きかけや、企業に対して消防団の活動に対する理解が得られる環境づくりの整備などにより、ここ数年増加傾向となっています。

今後においても、「自らの地域は自ら守る」という崇高な郷土愛護の精神に基づき、消火・防災活動はもとより、平常時の啓発など幅広い分野で地域防災の要として重要な役割を果たして行きたいと思えます。また、東日本大震災の経験などを踏まえながら、消防団が安全に活動が行えるよう環境を整備していきたいと考えております。

これからも、常備消防や地域と連携し、地域住民の安全・安心を守る消防として日々精進していきたいと思えます。



消防出初め式 一斉放水



シンフォニー（三重県）

「地域の中の消防隊に… 子どもからお年寄りまで」

多気町消防団 コスモス隊 隊長

岡井 一代

わが町多気町は、松阪牛でおなじみの松阪市の隣にあり、清流・宮川、櫛田川の流れる人口約15,000人の町です。

平成の大合併の折に、多気町と勢和村が合併し、今の多気町になりました。

合併前、勢和村にはすでに女性消防隊「ささゆり隊」があり、足並みをそろえるように「コスモス隊」が結成されました。

そんな2隊の紹介をさせていただきます。

まず、ささゆり隊は現在13名が在籍。山林の多い勢和地区を活動拠点とし、75歳以上の独り暮らしのお年寄りを定期的に訪問し、火の元の安全の確認や災害・緊急時の

避難の仕方、日頃注意する点や、消火器の取り扱い方をお話ししています。最近では、訪問を楽しみにしてくれる方も多数おられます。

一方、コスモス隊は平成18年4月に発足してしばらくは、これといった活動もせず、しかし、このままではいけない…と考えていました。

というのも、独居老人の方々を訪問しようと思っても、個人情報への壁にぶつかり名簿が入手できず…やはり何かせねば…と。すでにこのころ1年目の終わりごろでした。

そんな折、松阪地区広域消防組合多気分署の分署長から、春の火災予防運動のイベントで子ども向けに何か考えてほしいと依頼をいただきました。

「そうだ、お年寄りも大切やけど、子どもに防火意識を持たせることも大切やん。」

と、紙芝居をつくることにしました。

「普通では面白くない。特別デカいのにしよう！」と、A1サイズの



ささゆり独居

厚紙に「びよん、くう、とら」というキャラクターをつくり、防火クイズを盛り込み、子どもでも楽しめる内容にしました。

少し紹介すると…

びよん、くう、とらは、くうのお父さんと花火をしています。お父さんが場を離れたとき、ごみ箱に捨てた花火から出火してしまいます。そこで、「消防車を呼ぶときにかける電話番号は?」「消防車が水をとるところは?」「花火はどこへ捨てるの?」といったクイズに三択で答えながらお話を進めます。

これが第1作目「びよん、くう、とらの火の用心」です。

その後、保育園やお祭りなどでの依頼があり、2作目の「びよん、くう、とらの地震だ地震だ!」3作目の「メイ先生んちの火の用心」など、防火・防災に目を向けていただけるように作ってきました。

また、小学校からも防災のお話を…という依頼をいただき、大きな防災かるたを作ったり、子ども防災会議をしたり、消火器の使い方、水を使わないバケツリレーの練習など、年齢や内容に合わせて 隊員の知恵を結集して作成してきました。

また、一昨年より社会福祉協議会の高齢者の転倒予防教室で防災の話をして…ということで、地震の際の身の守り方や、普段からの心構えをお話ししています。

そして、昨年度より念願かない、75歳以



紙芝居（全体）

上の独居老人宅への訪問ができるようになりました。やはりささゆり隊同様、非常に歓迎していただき、私たちも楽しく回らせていただいています。

子どもも高齢者も、そしてもちろん町民みんなが安心・安全に住まえる町のお手伝いが少しでもできればうれしいです。

最後に、消防団という家族でも会社でもない組織。性別・年齢・職業など違う人々の中で私は、家族ではない考え方、世代の違う団員との関わりなど、とても勉強になり、育てていただいることに感謝し、これからの活動に役立てていきたいと思います。



バケツリレー

都道府県における消防操法大会の結果

(財)日本消防協会 都道府県消防協会

平成24年度の各都道府県消防操法大会は、5月20日の岡山県消防操法大会を皮切りに42都道府県において開催されました。

(財)日本消防協会では、消防団員の消防技術の練磨と

士気高揚を目的に、全国で開催される消防操法大会に要する経費について、競輪事業収益による財団法人JKKAの援助を受けて交付しています。

各都道府県消防操法大会の開催結果は、次のとおりです。

☆北海道

7月19日(木) 北海道消防学校

小型ポンプの部

【優勝】 根室北部消防事務組合別海消防団

【準優勝】 斜里地区消防組合斜里消防団

【優良賞】 森町消防団

釧路北部消防事務組合標茶消防団

第40回北海道消防操法訓練大会が、長谷川彰一総務

省消防庁次長、秋本敏文日本消防協会会長をはじめ多数のご来賓を迎え盛大に開催されました。

大会は炎天下の中で行われ、各隊とも日ごろの訓練の成果を十二分に発揮し、きびきびと取り組んでいました。

昼休みには札幌市消防音楽隊によるアトラクションが行われ、北海道消防協会の着ぐるみ消太くん、西ちゃん、札幌市消防局のマスコット「リスキュー君」も加わって大会に愛嬌をふりまきました。



北海道



北海道

☆青森県

8月29日(水) 青森県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】 十和田市消防団

小型ポンプの部

【優勝】 弘前市消防団

【総合優勝】 中弘地区消防協会

第27回青森県消防操法大会は平成24年8月29日(水)、県内8地区消防協会から選出された選手88名が

参加し、青森市の青森県消防学校において開催されました。日頃の厳しい訓練の成果をいかに発揮し、約800名の応援者、見学者からの大きな声援を受け、熱戦が繰り広げられました。

今大会では、ポンプ車の部で十和田市消防団が県大会6回目の優勝、小型ポンプの部で弘前市消防団が県大会3回目の優勝をはたし、十和田市消防団は平成24年10月7日東京臨海広域防災公園で開催された、第23回全国消防操法大会に青森県代表として出場しました。



青森県



青森県

☆岩手県

7月27日（金）岩手県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】二戸市消防団（二戸地区支部）

小型ポンプの部

【優勝】九戸村消防団（二戸地区支部）

第38回岩手県消防操法競技会が矢巾町の岩手県消防学校において行われ、ポンプ車の部に15隊、小型ポンプの部に15隊が出場し、大会関係者等約1,200名が参加し開催されました。

本年度の大会は、昨年3月11日に発生した東日本大震災津波により被災地の消防団の出場が危惧された中、全11地区支部から代表が出場し開催することがで



岩手県

きたことは、被災地の消防団の再興へ繋がるとともに、被災地の復旧・復興の力となりました。

各隊とも、地元応援団の大声援を受け、地区代表として厳しい練習を重ねて来た訓練成果を十二分に発揮した見事な操法が披露されました。

審査の結果、ポンプ車の部、小型ポンプの部とも二戸地区支部代表が優勝し、ポンプ車の部優勝の二戸市消防団が、10月7日（日）東京都で開催される第23回全国消防操法大会への出場権を獲得しました。

また、審査集計の合間には、開催地の矢巾町立煙山保育園幼年消防クラブ員による「防火遊戯」が披露され、大会に華を添えていただきました。



岩手県

☆宮城県

7月29日（日）登米市南方中央運動広場

ポンプ車の部

【優勝】登米市消防団

小型ポンプの部

【優勝】登米市消防団

7月下旬、気温32度を上回る猛暑の中、消防関係者、

応援団等約1,700人が集まり第47回宮城県消防操法大会が登米市南方中央運動広場にて開催されました。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災後初の大会となった今大会は、大きな被害にあった気仙沼市消防団を含め、県内6地区から7消防団が出場し熱戦を繰り広げるとともに被災地へ向けた復興のエールが込められた大会となりました。



宮城県



宮城県

☆秋田県

8月28日（火）秋田県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】横手市十文字消防団第3分団

【総合優勝】横手市支部

小型ポンプの部

【優勝】三種町消防団山本支団第4分団

第49回秋田県消防操法大会は平成24年8月28日（火）由利本荘市の秋田県消防学校で行われた。県内9支部の予選を勝ち抜いた小型ポンプの部9分団、ポンプ車の部7分団が出場し、白熱した戦いが展開された。

小型ポンプの部で優勝した三種町消防団山本支団第



秋田県



秋田県

☆山形県

7月8日(日)～9月9日 7会場で開催
各支部優勝チーム

支部名	ポンプ車の部	小型ポンプの部
東南村山	山辺町消防団	中山町消防団
西村山	河北町消防団	寒河江市消防団
北村山	東根市消防団	大石田消防団
最上	出場隊なし	金山町消防団
東南置賜	川西町消防団	川西町消防団
西置賜	長井市消防団	長井市消防団
庄内	鶴岡市消防団	鶴岡市消防団

消防団の消防操法技術の向上と士気高揚のため、山形県消防協会の主催により、協会の各支部ごとに会場を代え、ポンプ自動車の部32隊197名、小型ポンプの部47隊258名の出場隊員により、山形県消防操法実施要領(全国消防操法実施要領と同じ)により、水だし消防操法を実施しました。

☆新潟県

8月5日(日) グリーンパークあらかわ総合運動公園
駐車場

「消防力の充実強化を目指して！」

8月5日(日) 県内消防の団結・士気高揚と消防技術の向上を図り、消防活動の進歩充実に寄与することを目的として「第63回新潟県消防大会」を村上市で開催



新潟県

4分団は、第23回全国消防操法大会への出場を決めた。

☆福島県

8月26日(日) 福島県消防学校屋外訓練場

ポンプ車の部

【優勝】 塙町消防団

小型ポンプの部

【優勝】 田村市消防団

(公財)福島県消防協会と福島県の共催による第38回福島県消防操法大会は、県内14地区(1地区は原発事故避難の長期化により出場辞退)から選出されたポンプ車の部及び小型ポンプの部それぞれ14チームの選手154名と、大会関係者・応援・見学者等、約800名が参加し、開催されました。

出場選手は、猛暑・炎天下の中、家族や地元消防団員等の大きな声援を受けながら、日頃の訓練成果を大いに発揮するなど、熱戦が繰り広げられました。

大会の運営については、県内各消防本部の応援に加え、消防学校校友会で昼食弁当、飲料水等の販売を行い、休憩時には、本宮市消防団ラッパ隊のドリル演奏が行われるなど、円滑に進行され、来場者から好評を博しました。

また、今大会では、消防学校校友会より、炎天下の中、審査に従事される審査員へ、ロゴプリント半袖ポロシャツが贈呈されました。

催しました。

表彰式典は「村上市民ふれあいセンター」で、操法競技会は「グリーンパークあらかわ総合運動公園駐車場」にて実施しました。表彰式典では、地元消防から2名の意見発表が行われ、また昨年度の消防功労に対し延べ4,540名が知事及び協会長の表彰を受彰されました。

操法競技会では、ポンプ車及び小型ポンプの2部門に計27チームが参加しました。昨年から導入した水出し操法競技において、各チームとも日頃の訓練の成果を如何なく発揮し、昨年の総合得点を上回る結果が数多く見受けられました。卓越した操法技術をもって地域防災力の向上に貢献できることを期待しております。

成績結果は次のとおり。

ポンプ車の部

順位	出場消防隊名	総合得点
1	村上市消防団 山北方面隊	175.75
2	長岡市消防団 長岡川西方面隊	175.50
3	新潟市消防団 北方面隊	173.00
4	上越市消防団 上越方面隊	168.75
5	新発田市消防団	164.25
6	新潟市消防団 西方面隊	163.75
7	妙高市消防団 妙高高原方面隊	158.75
8	阿賀町消防団	157.00
9	南魚沼市消防団 塩沢方面隊	156.50

小型ポンプの部

順位	出場消防隊名	総合得点	タイム
1	見附市消防団	88.00	43.72
2	新発田市消防団	83.75	42.05
3	長岡市消防団 長岡西部方面隊	83.75	42.61
4	柏崎市消防団 北部方面隊	83.75	44.84
5	関川村消防団	82.75	44.75
6	上越市消防団 上越方面隊	79.75	45.96
7	加茂市消防団	78.75	44.57
8	佐渡市消防団 南佐渡方面隊	78.00	42.63
9	村上市消防団 朝日方面隊	76.50	45.92
10	新潟市消防団 西方面隊 (赤塚分団)	76.50	46.31
11	妙高市消防団 妙高高原方面隊	76.50	46.87
12	小千谷市消防団	76.25	42.85
13	十日町市消防団 松代方面隊	73.75	45.48
14	糸魚川市消防団 能生消防隊	72.75	43.73

順位	出場消防隊名	総合得点	タイム
15	村上市消防団 山北方面隊	72.75	45.65
16	五泉市消防団	72.50	45.42
17	湯沢町消防団	72.25	45.84
18	新潟市消防団 西方面隊 (黒埼分団)	67.50	46.26



新潟県

☆東京都

11月10日(土) 東京消防庁消防学校

ポンプ車の部

【優勝】多摩市消防団

小型ポンプの部

【優勝】渋谷消防団

社団法人東京都消防協会と東京消防庁共催で開催されている本大会も今年で42回を迎えました。東京消防庁消防学校において、特別区15団、多摩地区8団の計23団、消防団員約161名が参加し、連日の厳しい訓練の成果を競い合いました。約2,300名の応援者、見学者が見守る中、地元の高い期待と熱い声援を背に受け、熱気あふれる大会となりました。



東京都

☆神奈川県

7月24日(火) 神奈川県消防学校訓練場

ポンプ車の部

【優勝】綾瀬市消防団

小型ポンプの部

【優勝】南足柄市消防団

第48回神奈川県消防大会が7月24日県消防学校で開催された。蒸し暑く風が少ない、夏の強い日差しの中、団員は地域防災の守りを誇りに代表としての威厳を持ち、地域住民の声援と激励を受け実施された。

ポンプ車8隊、小型ポンプ車25隊200余名が出場し、競技が開始され応援席からは、声を出せ、焦るな、確実に等の声援をうけ熱戦が繰り広げられた。大会は、消防団員の消防技術や士気の向上、防災力強化を目標に各地区から勝ち抜いてきた精鋭が、応援者が見守る前できびきびとした動作、鍛えられた演技を披露し、日頃の訓練成果を充分発揮され大きな拍手を浴び、消防団の存在を遺憾なく県民に示した。

結果は小型ポンプの部、南足柄消防団、ポンプ車の部、綾瀬市消防団が最優勝の栄冠に輝き10月に開催される全国大会に向け新たな一歩を開始した。



ポンプ車の部



小型ポンプの部

☆埼玉県

8月25日(土) 埼玉県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】 所沢市消防団

【準優勝】 坂戸市消防団

【第3位】 朝霞市消防団

小型ポンプの部

【優勝】 小鹿野町消防団

【準優勝】 飯能消防団

県と共催の消防操法大会は、第27回を数え、各支部から予選を突破した精鋭が集い、ポンプ車の部10隊、小型ポンプの部5隊による優勝旗の争奪戦が展開された。

記録的な猛暑にもかかわらず、上田県知事をはじめ

県内の消防関係者や家族を含み約2,000名が見守る中、競技開始。午後のピーク時にはアスファルト上の地表温度が50度となる劣悪な状況、そんな中、鍛え抜かれた精神力と体力で誰一人熱中症になることなく、また、けが人もなく無事競技が終了。

競技中は、家族や同僚団員から熱い声援が飛び交い、選手達は、日頃の訓練成果を思う存分発揮していた。

優勝の栄誉は、ポンプ車の部で「所沢市消防団」、小型ポンプの部で「小鹿野町消防団」が勝ち取った。小鹿野町消防団は前回大会に続き、小型ポンプの部で2連覇、全国大会連続出場となった。

この大会で、地域と消防団の絆は、更に強まった。そう感じた大会であった。

☆群馬県

8月18日(土) 群馬県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】 沼田市消防団第4分団

【準優勝】 沼田市消防団第1分団

小型ポンプの部

【優勝】 昭和村消防団第6分団

【準優勝】 東吾妻町消防団第6分団

群馬県と群馬県消防協会との共催により隔年実施して

いる消防操法大会も第21回目を迎え、ポンプ車の部14チーム、小型ポンプの部7チームの精鋭が県内各地区代表として出場し、熱い戦いを繰り広げました。

選手は、応援団や関係者など約2,000名が見守る中、家族や地域の人の声援を受け、日頃の訓練の成果を存分に発揮しました。

また、競技終了後、審査結果の発表までの間太田市消防団ラッパ隊の皆様による模範演技及び消防学校初任科生による部隊訓練を披露していただきました。



群馬県



群馬県

☆千葉県

7月28日(土) 千葉県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】 君津市消防団

小型ポンプの部

【優勝】 大網白里町消防団

昨年は東日本大震災の影響で中止となったため2年ぶりとなる第48回千葉県消防操法大会は、真夏の暑い天気の中、森田千葉県知事をはじめ県内の消防関係者

や応援の家族等を含め約2,000名が参加して盛大に開催されました。

県内の各支部(10支部)から厳しい予選を勝ち抜いてきた、ポンプ車の部12チーム、小型ポンプの部12チームが出場して日頃の訓練の成果を競い合い、消防操法技術の向上と士気高揚を図りました。

会場には各出場チームのテントが立ち並び、必勝祈願の幟旗が翻って、それぞれのチームに対し、盛大な歓声が上がリ、応援も盛り上がっていました。



千葉県



千葉県

☆茨城県

9月30日～10月21日 茨城県立消防学校ほか

各地区優勝チーム 下表のとおり

63回目となる茨城県消防ポンプ操法競技大会は、県内6地区を会場に、ポンプ車の部50隊、小型ポンプ車の部26隊、合計76隊430名が参加して盛大に開催されました。

昨年引き続き猛暑の中、長期間にわたり厳しい訓練に耐えてきた各チームの選手みんなが「優勝」目指して競い合い、それぞれの会場は家族や関係者など地元応援団から盛んな声援が飛び、熱気溢れる大会となりました。

各地区優勝チーム

地区名	ポンプ車の部	小型ポンプの部
県北	ひたちなか市	大子町
県央	小美玉市	小美玉市
鹿行	潮来市	鹿嶋市
県南南部	取手市	阿見町
県南北部	つくばみらい市	かすみがうら市
県西	常総市	—



茨城県



茨城県

☆栃木県

7月28日(土) 栃木県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】 那須塩原市黒磯消防団

小型ポンプの部

【優勝】 さくら市消防団

第40回栃木県消防操法大会は、真夏の炎天下の中、選手や家族、消防団員、一般見学者約1,200名が参加し、盛大に開催されました。

各支部の予選を勝ち抜いたポンプ車の部8チーム、小型ポンプの部8チームが、地域の代表としての誇りを胸に、日頃の厳しい訓練の成果を十二分に発揮して、

レベルの高い操法技術を披露しました。

のほり旗が立ち並び、応援席からの大声援に包まれて、操法大会は熱気にあふれ、消防団員の士気の高さを肌で感じさせるものでありました。

特に、小型ポンプの部の優勝チームのさくら市消防団は、10月7日に東京都明で開催された全国大会に出場し、地元応援団が見守る前で、正々堂々と立派な操法を披露いたしました。

今後とも、消防操法大会を糧として、本県の消防技術のより一層の向上と、消防団員の士気の高揚に努めて参ります。



栃木県



栃木県

☆山梨県

9月9日(日) 山梨県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】 笛吹市消防団

第47回山梨県消防団員操法大会は、天候にも恵まれ参加者1,200人を超える中で盛大に開催されました。隔

年実施となってからの初めてのポンプ車操法大会であり、選手たちの大会にける意気込みは非常に強く、出場選手たちは、『優勝』という二文字に向かい、早朝、夜間、休日と訓練を重ね操法技術に磨きをかけてきました。

当日は8支部から8消防団が参加し、日頃の訓練の

成果を発揮し、会場からは選手が披露する機敏な動作に盛大な拍手や声援が送られ、競技終了後は出場隊の健闘を讃えるとともに、それぞれの団において長く厳しい訓練を続けてきた選手たちの労をねぎらっていました。惜しくも優勝を逃した消防団ではただちに今後の訓



山梨県

練計画の検討を開始したところもあり、操法大会は消防団員の消防技術の向上に確実に寄与しているものと確信いたしました。一人ひとりの消防団員の思いを大切に、今後もよりよい消防操法大会となるよう努めていきたいと思っています。



山梨県

☆長野県

7月29日（日）上田市 上田古戦場公園多目的グラウンド・県営上田野球場
ポンプ車の部

【優勝】箕輪町消防団

小型ポンプの部

【優勝】松本市消防団

消防ラッパ吹奏大会

【優勝】須坂市消防団

長野県と公益財団法人長野県消防協会の共催による「第54回長野県消防ポンプ操法大会」及び「第21回長野県消防ラッパ吹奏大会」を開催しました。

競技には県下13地区から選抜された、ポンプ車の部12チーム、小型ポンプの部13チーム及びラッパ吹奏13チーム、エキシビジョンとして、女性によるポンプ操法2チームが出場し、大会関係者、観客と合わせ約3,000人が参加しました。

また、消防団ラッパ隊との交流を行い、消防ラッパ吹奏技術の更なる向上、消防団のイメージアップなどを目的とした「消防団ラッパ隊広域交流会」を県操法・ラッパ吹奏大会に併せて開催しました。

大勢の消防団員や一般来場者が見守る中、岐阜県恵那市消防団、静岡県富士市消防団、小諸市消防団、上田市消防団からドリルを始め各地域ならではの曲目を次々と披露し、観客から大きな拍手が送られました。



長野県

☆福井県

7月28日（土）福井県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】南越消防組合越前市消防団 味真野分団

小型ポンプの部

【優勝】大野市消防団 第5分団

毎年、福井県と当協会の共催で開催しており、61回目となりました。

7月21日の開催予定でしたが、前日からの集中豪雨で県下に大雨・洪水警報が発令され、家屋の浸水被害も発生したことから、開催延期を余儀なくされました。

1週間後に開催することができましたが、打って変って厳しい暑さの中、9地方消防協会から選出された、ポンプ車の部9チームおよび小型ポンプの部7チームの選手達は、地元の応援者や消防関係者の声援を受け、日頃の訓練の成果を力一杯発揮し、おおいに盛り上がりました。

☆石川県

7月28日（土）石川県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】かほく市消防団高松第二分団

【準優勝】津幡町消防団倉見分団・能登町消防団三波分団

第60回石川県消防操法大会が、7月28日石川県消防学校において開催された。林 一秀能登町消防団長の指揮のもと、加賀市消防団ラッパ隊上出正彦隊長以下



石川県

13名の吹奏により、前年度優勝の能登町消防団三波分団を先頭に地区大会で優勝した精鋭18消防団・分団が入場行進を行った。七尾鹿島広域圏事務組合第2消防団鹿西分団の堀内浩一選手の宣誓があり、競技が開始された。

競技結果は、かほく市消防団高松第二分団が優勝の栄冠を初めて勝ち取り、第23回全国消防操法大会に出

場することになった。

また開会式では、消防団員を従業員として雇用し、消防団活動を支援している11の協力事業所に対し、谷本石川県知事から感謝状が贈呈された。

競技終了後、第60回の節目の記念大会を祝して、全国的に活動する輪島高洲太鼓で大会を盛り上げた。

☆富山県

7月28日（土）富山県広域消防防災センター

ポンプ車の部

【優勝】 砺波市消防団 庄下分団

【次勝】 高岡市消防団 二塚分団

【参勝】 富山市消防団 草島分団

小型ポンプの部

【優勝】 高岡市消防団 西五位分団（全国消防操法大会出場）

【次勝】 富山市消防団 細入南分団



富山県

【参勝】 高岡市消防団 北般若分団

第63回富山県下消防団消防操法大会は、平成24年4月に新設された富山県広域消防防災センターにおいて開催され、ポンプ車の部21チーム、小型ポンプの部13チームの参加のもと、気温37度を超す猛暑の中、参加各選手は日頃の訓練の成果を遺憾なく存分に発揮するとともに、応援団が掲げるのぼり旗と、約1,600人の来場者から大きな声援が送られるなど、消防団の県民に対するPRに大いに貢献する熱気あふれる大会となりました。



富山県

☆三重県

7月21日（土）三重県消防学校

小型ポンプの部

【優勝】 鈴鹿市消防団

【準優勝】 いなべ市消防団

【3位】 桑名市消防団

平成24年7月21日、三重県消防学校において、12消防団の参加のもと、平成24年度三重県消防操法大会が盛大に開催されました。出場団は雨天の中、日頃の消防操法技術を競い合い、また、出場選手の活躍を後押

しするように津市消防本部音楽隊、伊賀市消防団ラッパ隊の演奏が披露されるなど、大会は盛り上がりを見せました。

大会結果は、鈴鹿市消防団（団長：藤田充）が、昭和42年の同大会開催以来、初となる優勝の成績を収め、同団は10月に東京で開催された第23回全国消防操法大会に出場し、優良賞を受賞しました。

これら消防操法大会の結果を受け、県内消防団の士気は、一層の高揚を見せており、今後の活躍が期待されます。



県大会で優勝した鈴鹿市消防団



第23回全国消防操法大会での消防操法競技の様子

☆愛知県

平成24年7月21日（土）半田市役所 職員駐車場

ポンプ車の部

【優勝】 大府市消防団

小型ポンプの部

【優勝】 日進市消防団

愛知県では、消防団員の消火技術向上と士気高揚を図り日ごろの訓練成果を発揮するため、昭和31年度からポンプ車操法、小型ポンプ操法の2種目で、消防操法大会を開催しています。

大会当日は、約3,000人が見守るなか、ポンプ車の部に23隊、小型ポンプ操法に14隊が参加し日ごろの訓練の成果を存分に発揮しました。今年は全国操法大会が開催されることもあって特にポンプ車の部は、熟度の高い消防操法が展開され上位は優劣が付け難い僅差でありました。

会場に隣接して、地元の物産販売のコーナーが設けられ、開催地の銘品などが人気を博しました。操法の休憩時間には、アトラクションとして知多中部消防音



愛知県

楽隊の演奏、にっぽんど真ん中祭りで連続入賞している地元のダンスチームDDMカンパニーの華やかなダンス、半田ジュニアプラスバンドの演奏などが華を添えました。また、名古屋市大須を拠点に活躍中のアイドルグループ“OS☆U”のメンバーも登場し、歌とダンスを披露した後、半田市女性消防団との軽可搬ポンプの放水体験などを行い、会場の雰囲気は大いに盛り上がりました。



愛知県

☆岐阜県

8月5日(日) 羽島市運動公園

小型ポンプの部

【優勝】羽島市消防団B

今年の「消防感謝祭」第61回岐阜県消防操法大会から、「個人表彰」を新設し、最優秀番員を表彰する事にしました。岐阜県では、「団体表彰」の総合得点を随時発表する形式をとっています。しかし、最優秀番員賞は閉会式の結果発表で初めて発表されますので、発表時は所属消防団や観客から大きな歓声が上がりました。



岐阜県

大会当日は、岐阜県各地から地方大会等を勝ち抜いた、消防団の精鋭達が堂々と入場行進し幕を開けました。今年から新設した個人表彰もあって、選手全員が気迫みなぎり、活気溢れる大会になりました。

また、会場付近ではバザー会場・東日本大震災のパネル展示・煙体験ハウス等の地域住民の防災意識の向上を目的としたブースの設置をしました。さらには、自衛隊・岐阜県警の協力のもと、防災車両を1台づつ展示頂き、ちょっとした防災展の開催となりました。来場者は、6,000人を超え、消防団のPR・地域住民の防災意識の向上に大きく貢献しました。



岐阜県

☆京都府

8月5日(日) 京都府立丹波自然運動公園

ポンプ車の部

【優勝】与謝野町消防団

小型ポンプの部

【優勝】精華町消防団

第22回京都府消防操法大会が酷暑の中、来賓、消防団員等大会関係者、一般見学者あわせて約1,500人の参加のもと盛大に開催されました。

ポンプ車の部は10消防団、小型ポンプの部は21消防団が出場し、各市町村の厳しい予選を勝ち抜いた代表団員が、日頃の厳しい訓練の成果を力一杯発揮し、操法技術を競い合う姿に、応援席から大きな声援が送られ、熱気あふれる大会となりました。

なお、今回から優秀消防団の表彰に加え、操法の役割ごとに優秀な団員を個人表彰し、その栄誉を讃えることとし、表彰式は、感動的で、より盛り上がりを見せた中、大会を終えました。



京都府



京都府

☆大阪府

9月9日(日)大阪府立消防学校

【総合優勝】中河内地区支部

ポンプ車の部

【優勝】羽曳野市消防団

小型ポンプの部

【優勝】柏原市消防団

大阪府と大阪府消防協会との共催により毎年実施して

いる大阪府消防操法訓練大会も第56回を迎えました。

当日は、晴天に恵まれ、府内7地区から選抜された2部門それぞれ7団、計14の出場団は、日頃の厳しい訓練の成果を発揮して熱気あふれる大会になりました。

「小型ポンプの部」で優勝した柏原市消防団は、第23回全国消防操法大会に出場することが決定しました。

柏原市消防団は、昨年の「ポンプ車の部」の優勝に続き、連覇となりました。



大阪府



大阪府

☆兵庫県

8月5日(日)兵庫県立広域防災センター

ポンプ車の部

【優勝】南あわじ市消防団

小型ポンプの部

【優勝】福崎町消防団

今年で24回目を迎えた兵庫県消防操法大会は、夏の太陽が燦々と照りつける中、兵庫県立広域防災センターにて開催されました。

炎天下の中にもかかわらず、早朝より多くの関係者や見学者が声援を送る中、県下各9地区の代表チーム(小型ポンプの部9隊、ポンプ車の部9隊)が日ごろ



兵庫県



兵庫県



兵庫県

の訓練成果を存分に発揮し、熱気溢れる大会となりました。

また、昨年開催された全国女性消防操法大会に出場

した、豊岡市女性消防隊が操法を披露して下さり、観客からは盛んな拍手が送られ、大会に華を添えていただきました。

☆奈良県

9月5日(水) 橿原市慈明寺町 橿原運動公園駐車場

ポンプ車の部

【優勝】葛城市消防団

小型ポンプの部

【優勝】奈良市消防団

第24回奈良県消防操法大会は、奈良県と奈良県消防協会の共催により、前回と同じ橿原市慈明寺町橿原運動公園駐車場において開催しました。

今年も、ことのほか残暑厳しく、当日もうだるような暑さに見舞われましたが、県下各支部から、ポンプ車の部には11チーム、小型ポンプの部には8チームが参加し、出場隊員は日頃の訓練の成果を十分に発揮し、熱戦を繰り上げました。特にポンプ車操法は実戦さながらに「水出し」による操法をおこない、多数の来賓の他、消防戦・団員や家族ら、約1,500人が見守るなか、盛会のうちにけが人もなく無事に大会を終了することができました。

なお、ポンプ車の部において、優勝した葛城市消防団チームは、平成24年10月7日に東京臨海広域防災公園で開催された第23回全国消防操法大会に出場し健闘いたしました。



奈良県

☆滋賀県

8月5日(日) 滋賀県消防学校屋外訓練場

ポンプ車の部

【優勝】野洲市消防団

小型ポンプの部

【優勝】甲賀市消防団B

第47回滋賀県消防操法訓練大会は、ポンプ車の部18チーム、小型ポンプの部11チームの精鋭が県内各地域の代表として出場し、熱い闘いを繰り上げました。

選手をはじめ、応援団や関係者など約2,400人が見守る中、ポンプ車の部では全国大会出場を目指し、家族や地域の方々の声援を受け、「心・技・体」を養うため日頃より積み重ねた厳しい訓練の成果を思う存分発揮し、迅速適正で士気旺盛な熱気溢れる競技が繰り上げられました。

多くの声援と激励を受け、消防団員の消防技術の向

上と士気の高揚を図り、消防団活動の進歩・充実に寄与し、県民に対する消防団活動の理解を深めるといふ本大会の目的を十分に達し得た大会となりました。



滋賀県

☆和歌山県

8月5日(日) 紀の川市打田総合スポーツ公園

ポンプ車の部

【優勝】御坊市消防団名田分団

小型ポンプの部

【優勝】有田市消防団宮原分団

和歌山県、(助)和歌山県消防協会及び和歌山県消防長会との共催による和歌山県消防ポンプ操法大会は、隔年で開催し、今回で24回目を迎えました。

ポンプ車の部に13チーム、小型ポンプの部に14チームの合計27チームが参加し盛大に開催されました。

家族や地域の方々の応援や、関係者約1,000人の声援を受け熱戦が繰り上げられました。

日頃の訓練成果を遺憾なく発揮し、消防団員の士気の高揚と消防技術の向上に大きな成果を上げ、本大会の目的が十分に達成できました。



和歌山県



和歌山県



和歌山県

☆鳥取県

7月15日(日) 米子市、鳥取県消防学校 屋外訓練場
ポンプ車の部

【優勝】 米子市消防団(成実分団)

小型ポンプの部

【優勝】 米子市消防団(福生東分団)

第58回鳥取県消防ポンプ操法大会は、当日の最高気温が36度と猛暑になりましたが、ポンプ車の部12隊、小型ポンプの部9隊の出場で日頃の訓練成果を競い合

い、熱のこもった大会となり、小型ポンプの部で優勝した米子市消防団(福生東分団)が初の全国大会出場権を手に入れました。

また、本大会から一般住民にも来場してもらえるように、起震車による震度体験や消防学校訓練棟内での煙体験を実施し、東日本大震災の写真パネルや県内消防団の写真パネル等の展示、多機能車両などの展示も行い、消防グッズ販売店にも出展していただいて、グッズ販売をお願いしました。



鳥取県



鳥取県

☆島根県

8月5日(日) 横田公園陸上競技場(奥出雲町)
ポンプ車の部

【優勝】 奥出雲町消防団八川分団

小型ポンプの部

【優勝】 奥出雲町消防団横田分団

第56回島根県消防操法大会には、ポンプ車の部に12

隊、小型ポンプの部に26隊が出場し、約2,200名の観衆が見守る中、猛暑になりましたが日頃の訓練の成果を十二分に発揮し、規律、技、速さを競い合いました。

昼休みには、第23回全国消防操法大会ポンプ車の部に県代表として出場する益田市消防団の訓練披露と女性消防団員による操法展示が行われ、会場は大いに盛り上がりました。



島根県



島根県

☆岡山県

5月20日(日) 岡山県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】和気町消防団第4分団

小型ポンプの部

【優勝】岡山市消防団都六区分団

今大会は、備前地区、備中地区、美作地区の3地区から11チームずつ出場。さらに前回優勝した市町村のシード枠2チームを合わせた35チームの出場となり、ポンプ



大会会場(左下 赤磐市消防団ラッパ隊)

車の部10チーム、小型ポンプの部25チームに分かれ、所要時間・操法の的確性などを競いました。なお、今回は司会の赤磐市消防団女性部 藤原部長と進行の同団ラッパ隊の皆さんで会場を大きく盛り上げていただきました。

大会結果は、ポンプ車の部で優勝を果たした和気町第4分団が8連覇を成し遂げ、10月7日に開催された第23回全国消防操法大会において、前回出場の第21回大会に引き続き、見事全国優勝を果たしました。



審査員の皆さん

☆山口県

9月15日(土) 山口県消防学校

基本操法ポンプ車の部

【優勝】萩市消防団

基本操法小型ポンプの部

【優勝】萩市消防団A

応急操法ポンプ車の部

【優勝】岩国市消防団岩国南方隊岩国分団

応急操法小型ポンプの部

【優勝】宇部市宇部消防団東部方面隊西岐波分団

女性軽可搬ポンプ基本操法の部

【優勝】和木町消防団

女性水バケツ消火競技

【優勝】阿東町婦人防火クラブB

山口県、山口県消防協会及び山口県消防クラブ連合

会の主催のもとで開催された本大会は、今年で59回目を迎え、第30回女性消防操法大会と併せ、参加者約1,400名のもと盛大に行われました。

今年は17市町から、基本操法ポンプ車の部7隊、基本操法小型ポンプの部16隊、応急操法ポンプ車の部7隊、応急操法小型ポンプの部11隊及び女性軽可搬ポンプ基本操法2隊、女性水バケツ消火競技4隊の6部門計47隊が出場しました。

台風16号の接近により未明に激しい雷雨があったものの、大会開催時には晴天に恵まれ、競技が始まると、応援の家族、団員から盛んな声援が飛び交い、日頃の訓練成果が遺憾なく発揮されました。

また、来年度の全国女性消防操法大会の出場権を競う軽可搬ポンプは、熱い闘いの結果、和木町が全国大会初出場を決めました。



応急操法



選手宣誓

☆徳島県

7月22日(日) 徳島県消防学校 グラウンド

ポンプ車の部

【優勝】阿南市消防団 加茂谷分団第7班

小型ポンプの部

【優勝】阿南市消防団 加茂谷分団第6班

第28回徳島県消防操法競技大会は、徳島県消防学校

グラウンドにおいての初めての開催となりました。

ポンプ車の部に12隊、小型ポンプの部に18隊が出場し、炎天下、仲間の団員や家族など約1,200人の熱い声援を受けながら、長く厳しい訓練の成果を遺憾なく発揮した白熱の競技を繰り広げました。

また、昼の休憩時には、小松島市女性消防隊による軽可搬ポンプ操法が披露され、大きな拍手が送られました。



徳島県



徳島県

☆香川県

9月9日(日)香川県消防学校放水訓練場

ポンプ車の部

【優勝】三豊市消防団豊中方面隊

小型ポンプの部

【優勝】土庄町消防団土庄分団

今回で40回目となる香川県消防操法大会では、県内10地区の代表消防団が、互いに競い合い、日ごろの厳しい訓練の成果を存分に発揮し、消防操法技術の向上と消防団員の士気の高揚が大いに図られました。1,000人以上の消防関係者が集まり、熱気に満ちた大会となりました。

また、平成17年4月に開校した消防学校を会場とした

大会で、防災センターを併設していることから、消防関係者以外の一般見学者も多く、盛会裡に終了しました。



香川県

☆愛媛県

7月29日(日)愛媛県消防学校 大規模訓練場

ポンプ車の部

【優勝】伊方町消防団 第9分団

小型ポンプの部

【優勝】伊方町消防団 第3分団

愛媛県と愛媛県消防協会の主催で、第27回愛媛県消防操法大会が盛大に行われました。

本大会は、全国消防操法大会が開催される年の隔年で開催しており、県内(20市町)11地区から地区大会で勝ち抜いた、ポンプ車の部15チーム、小型ポンプの部17チームの選手175名と、出場消防団関係者、家族、地域住民など1,600人余りが参加し、猛暑の中、日頃の厳しい訓練の成果を披露しました。

ポンプ車の部で優勝した伊方町消防団第9分団が、第23回全国大会出場権を獲得しました。

また、小型ポンプの部で優勝した伊方町消防団第3分団は、前回に続き連覇を成し遂げました。

最優秀選手個人の部表彰では、部門ごとに名前を呼ばれると会場から大きな拍手と声援が送られ、さらに盛り上がった大会となりました。



愛媛県



愛媛県



愛媛県

☆長崎県

8月5日(日)長崎県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】壱岐市消防団

小型ポンプの部

【優勝】壱岐市消防団

長崎県と長崎県消防協会の共催で2年毎に開催している本大会も第31回を迎えました。

当日は、早朝から8月の強い日差しと会場の熱気が相まって、選手のみならずスタッフ、応援団、観客も汗をしたたらせる中行われました。

各分会から選出された16市町消防団25チームが、1,500名余の来場者が見守る中、この日のために訓練した成果を十分に発揮し、激戦を繰り広げました。

全てのチームが気迫に満ちあふれた操法を展開し、標的が落とされるたびに大きな歓声が沸き起こりました。



開会式全体風景

優勝した老岐市消防団チームは、ポンプ車の部では実に9連覇を達成し、又小型ポンプの部では第29回大会以来の優勝を果たしました。

10月7日に開催された全国大会では、小型ポンプの部で老岐市消防団が、悪天の中見事なチームワークを見せて、長崎県代表として実に30年ぶりに優勝の栄冠に輝きました。

本県代表は前回、前々回と2回連続で準優勝でしたので、まさに念願の全国優勝となりました。



放水風景

☆福岡県

9月9日(日) 福岡県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】朝倉市消防団

小型ポンプの部

【優勝】福岡市東消防団

大会当日は晴天に恵まれ、操法大会参加人員288名、大会関係者約500名、応援者1,300名と2,000人を超える方が集まり盛大に開催されました。今回の大会は、日本消防協会の秋本会長を迎え岡部会長の下、選手をはじめ関係

者の緊張感と規律ある、熱気に満ちた大会となりました。各消防団は日頃の厳しい訓練の成果を存分に発揮し、消防操法技術の向上と消防団員の士気の高揚が大いに図られました。また、本年参加の福岡市消防団の音楽隊、カラーガード隊の演奏・演技が大会を盛り上げてくれました。熱戦の結果、今回は小型ポンプの部で福岡市東消防団が優勝という栄冠を勝ち取り10月に東京臨海防災公園で開催される全国大会の出場権を得られました。大会が終わりに近づくにつれ、天候が怪しくなり、表彰が終わる頃には滝のような雨が降りましたが、無事終了することができました。



福岡県



福岡県

☆大分県

8月26日(日) 由布市挾間町 大分県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】九重町消防団

小型ポンプの部

【優勝】佐伯市直川消防団

27回目を迎えた今大会は、早朝から晴れたり、にわか雨が降ったりと天候不順のなか、来賓・大会関係者等1,000名が参加して開催され、県下17の消防団からポンプ車の部10隊、小型ポンプの部13隊が出場して、日頃の訓練の成果を競いました。

特に今年は7月の二度に渡る九州北部豪雨の被災地

となった市町村の出場が危ぶまれましたが、消防魂を如何なく発揮し、盛會裡に終了しました。



大分県

☆熊本県

8月26日(日) 熊本県天草市大矢崎緑地公園

ポンプ車の部

【優勝】甲佐町消防団

小型ポンプの部

【優勝】天草市消防団(牛深方面隊)

熊本県と熊本県消防協会との共催により『第29回熊本県消防操法大会』が猛暑の中、「藍より青い」天草の海に囲まれた天草市大矢崎緑地公園で開催され、日本消防協会の秋本会長を始め多数のご来賓に出席していただき、激励の言葉を賜りました。

会場内には各消防団の横断幕や色とりどりの幟旗が掲げられ、また、会場の一角には消防グッズや地元特産品の販売店も建ち並ぶなど、大変な盛りあがりを見



熊本県

せました。

県内23支部より選抜された、ポンプ車の部12チーム、小型ポンプの部28チームの選手達は地元の熱い期待と盛大な声援を受け、約3,000人が見守る中、日頃の厳しい訓練の成果を遺憾なく発揮して、熱気あふれる競技が繰り広げられました。

なお、今回、ポンプの部で優勝した天草市消防団が全国大会出場への推薦を受けました。



熊本県

☆宮崎県

8月25日(土) 宮崎県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】日向市消防団第2分団第6部

小型ポンプの部

【優勝】都農町消防団東分団第4部

小型積載車の部

【優勝】日之影町消防団第3分団第13部

8月25日(土) 宮崎県消防学校において、財団法人

宮崎県消防協会と宮崎県との共催による第33回宮崎県消防操法大会が、4年ぶりに盛大に開催されました。(2年前の県大会が口蹄疫により中止となった為)

当日は晴天に恵まれ、ポンプ車の部9隊、小型ポンプの部13隊、小型ポンプ積載車の部10隊の合計32隊が出場して、熱戦を繰り広げ、小型ポンプの部では都農町消防団が優勝し、全国大会の切符を手に入れました。

競技終了後は、延岡市消防団ラッパ隊によるアトラクションもあり、盛会のうちに終了致しました。



宮崎県



宮崎県

☆鹿児島県

8月30日(木) 鹿児島県消防学校

ポンプ車の部

【優勝】中種子町消防団

小型ポンプの部

【優勝】長島町消防団

鹿児島県と鹿児島県消防協会主催による第29回鹿児島県消防操法大会は、前回大会が口蹄疫の発生のため中止されたことから、4年ぶりの大会となりました。

曇り、時折の雨、強い夏の日差しと安定しない天候

ではありましたが、消防団員やその家族、一般見学者等約700名の大きな声援を受けて、県下消防協会11支部22消防団の熱い戦いが繰り広げられました。

長く厳しい練習を経て、勝ち抜いてきた各支部代表の面々であり、甲乙つけがたい見事な操法が展開される中、小型ポンプの部で出水支部長島町消防団中央分団、ポンプ車の部で熊毛支部中種子町消防団中央分団が栄えある優勝となりました。連続出場となった中種子町消防団の全国消防操法大会での活躍が大いに期待されます。



鹿児島県



鹿児島県

平成24年度防火ポスター・ 防火防災作文コンクール表彰式

全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、平成24年12月26日（水）に日本消防会館において、平成24年度の防火ポスター及び防火防災作文コンクール最優秀賞受賞者の表彰式を行いました。秋本会長からそれぞれ賞状と記念品を受賞者に、最優秀受賞者の在籍中学校に、記念品を贈呈しました。

受賞された皆さま、おめでとうございます。



平成24年度の防火ポスター及び防火防災作文コンクール最優秀賞受賞者及び学校関係者と受賞者のご家族



【作文の部 最優秀賞】
宮城県石巻市立湊中学校
3年 横山 巧さん



【ポスターの部 最優秀賞】
広島県福山市立城北中学校
3年 土屋 菜摘さん

頑張れ!
少年消防
クラブ

No.59 西東京消防少年団（東京都）
西東京市消防団出初式において、
救急演技披露

西東京消防署 防災安全係 北川 里佳

平成25年1月13日（日）、西東京消防少年団（団長 小林孝一）は、新年最初の活動として西東京市消防団出初式において救急技術の演技を披露しました。

想定内容は、歩行者と乗用車の交通事故でけが人が3名発生したということで、少年団員が手分けをして119番通報や心肺蘇生とAEDによる電気ショック、応急担架を作成して救急隊に引き継ぐまでの一連の動きを行いました。

大勢の消防団員や一般市民の方が見守る

中、団員達は物怖じせず、堂々と演技を披露しました。体の小さな小学生でも訓練すれば、これだけできるようになるという事をアピールすることができました。

団員達も「最初は緊張したけど、うまくできて良かった。」とほっとした表情をしていました。

今年も1年間、様々な活動を通じて団員達が地域防災の担い手として立派に成長してくれることを期待します。



少年消防クラブ活動に参加しませんか

消防庁 防災課

少年消防クラブは、子どもたちが防火・防災について学び、訓練や講習など様々な体験を通して、消火や応急手当などの知識・技術を身につけることを目的として活動しているクラブです。学校、町内会、消防署、消防団（分団）などの単位で組織されていることが多く、平成24年5月1日現在、日本全国で4,749クラブ、小学生から高校生までの約42万人のクラブ員たちが活発に活動しています※。

少年消防クラブの活動内容はクラブによって異なりますが、例えば以下のような活動が行われています。

(1) 講習会・防災訓練等への参加

防災講習会や防災訓練などへの参加、消防署への見学訪問などを通じ、火災の知識や、地震などの自然災害が発生する仕組みを学習したり、消火器などを使った初期消火の方法、ロープワーク、応急手当の方法などを学んだりしています。

(2) 研究発表、ポスター作成

防火・防災に関する研究発表会を行い、その成果をまとめたレポートや防火ポスター、防火新聞等を校内に展示したり、各家庭に配布したりして、火災予防や防火・防災意識の高揚に努めています。

(3) 防災まち歩き、防災マップ作り

クラブ員たちが自分たちの地域を実際に歩き、消火栓の場所や災害時の危険箇所などについて把握し、防災マップを作成することなどを通して、自分たちの地域に対する理解を深めています。

(4) 防火広報の実施

消防職員・消防団員とともに、地域の住民の方々に火災予防を呼びかけるため、火災予防運動実施期間や年末を中心に防火パトロールや防火パレードなどの防火広報活動を行っています。

(5) 防災キャンプ

夏休みなどを利用して、小学校の体育館や運動場、キャンプ場などに寝泊まり（避難所体験訓練）し、炊き出し、キャ

ンプファイヤーなど普段できない活動を通して、仲間との連帯感を高めています。

少年消防クラブの活動は、命や暮らしを守ることの大切さを学ぶとともに、地域と関わりを持ち、ある程度幅をもった年齢層の仲間との交流経験を持つ機会にもなっており、人間形成や地域社会への参加の面でも大きな意味がある活動となっています。

特に、中学生や高校生は、将来の地域防災の担い手としての役割だけでなく、現時点においても地域における防災活動に参加し、地域防災力の向上に寄与することが期待されており、少年消防クラブ活動へのより多くの参加が望まれるところです。

なお、東日本大震災を受けて、消防庁において開催した、「東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会」の報告書（平成24年8月）においても、少年消防クラブ等の防災教育の取組が、地域防災力の向上のために重要であるとされています。

消防庁では、地方公共団体等とともに毎年、優良な少年消防クラブや指導者に対する表彰を実施しており、平成23年度は、特に優良なクラブ18団体、優良なクラブ35団体、優良な指導者9名を表彰しました。

また、消防庁などが参画する少年消防クラブ活性化推進会議（事務局：財団法人日本防火協会）では平成22、23年度に、実践的な活動を取り入れるなど積極的な取組をしようとする88クラブを「モデル少年消防クラブ」として選定し、モデル少年消防クラブの具体的な活動事例を少年消防クラブニュース（季刊）（<http://www.n-bouka.or.jp/club/index.html>）で紹介するなどしています。

身近な生活の中から火災・災害を予防する方法等を学ぶ少年消防クラブに参加してみませんか。お住まいの地域の少年消防クラブの活動については、お近くの消防署や市町村にお問い合わせください。



ホース延長訓練の様子（東京都 小平消防少年団）
（提供：東京消防庁小平消防署）



水消火器体験訓練の様子（神奈川県 大和市少年消防団）
（提供：大和市消防本部）

※ 東日本大震災の影響により、宮城県女川町、福島県広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾町のデータについては、前々年数値（平成22年5月1日現在）による集計

問い合わせ先
消防庁国民保護・防災部防災課 岩片
TEL：03-5253-7525

住宅の耐震化と家具の転倒防止について

消防庁 防災課

地震はいつどこで起きるかわかりません。阪神・淡路大震災では、6,400名を超える死者のうち、8割以上が住宅の倒壊等による圧迫もしくは倒壊した住宅や転倒した家具から逃れることができなまま火災に遭遇し亡くなっています。

このような被害を少しでも軽減するためには、住宅の耐震化や家具の転倒防止などが極めて有効です。

住宅の耐震化について

○ 自宅の建築年度の確認

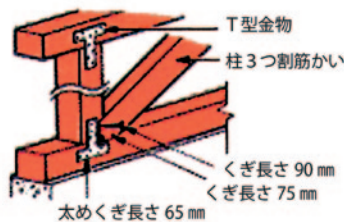
自宅の建築年度を確認しましょう。建築基準法による現行の耐震基準は昭和56年6月1日から導入されており、昭和56年5月以前に建築確認を受けて建築された建築物の中には、現行の耐震基準に適合しない建築物があります。

○ 耐震診断の相談

自宅が昭和56年5月以前に建築されている場合、まずは、自治体の窓口相談するのが良いでしょう。耐震診断に関する補助制度を設けている自治体や無料で診断士を派遣してくれる自治体などもあり、これらの制度をうまく活用すると良いでしょう。また、行政以外では、地域の建築士会で相談を行っている場合もあります。

○ 耐震補強の実施

耐震診断の結果、耐震性がないと判断された場合は、補強を行う必要があります。壁の筋かい等を追加する、梁と柱の間を金具で補強する、基礎を鋼材で補強する等、様々な方法がありますので、建築士や工務店とよく相談することが必要です。この場合も、工費の一部について自治体が補助制度を設けている場合がありますので、施工前に自治体の窓口で制度の確認を行うことをおすすめします。



耐震補強の一例

家具の転倒防止について

○ 家具配置等の工夫

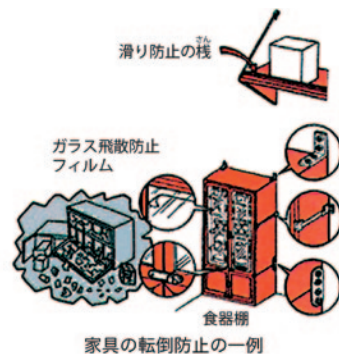
まずは、転倒被害を受けにくい家具の配置について工夫してみてください。例えば、家具の配置と就寝する位置については、家具の高さ分だけ離れた場所にするか、家具の側方部分で就寝するほうが安全です。

また、家具が倒れても出入口が塞がれないように、家具は出入口に置かない、あるいは万が一倒れても通り抜けられる空間を残せる位置に置くなど、部屋の状況にあわせて工夫してみることが大切です。

○ 具体的な転倒防止対策

配置の工夫だけではやはり限界があります。タンスや本棚などをL型金具や支え棒などで固定する、食器棚に扉が開かないための扉開放防止器具を取り付ける、冷蔵庫を転倒防止用ベルトで固定するなど、具体的な転倒防止策を講じる必要があります。

これらの器具については、家電メーカー・家具メーカーや販売店に問い合わせるか、ホームセンター等で販売されているものを活用しても良いでしょう。



住宅の耐震化や家具の転倒防止などは、地震被害を軽減するために有効な取り組みです。確かに費用を要しますが、既存の制度を活用することなどにより、通常より安価に対応できる場合もあります。地震が起きたとき、地震の揺れや転倒した家具から自分の身を守るため、日頃から一人ひとりが地震に対する備えの意識を持つことが必要です。自宅の建築年度を確認して、昭和56年5月以前の建築物であれば、耐震診断を受けることや、自宅の家具固定などについて検討されてはいかがでしょうか。

家具の転倒防止については、消防庁HPで詳しく紹介しています。

<http://www.fdma.go.jp/html/life/kagui.html>

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課震災対策係

日野、長崎

TEL：03-5253-7525

うちの

名物団員



多気町消防団 第5分団 副分団長

大西 良一



多気町消防団の出初식을盛り上げる「梯子乗り」。

この出陣を告げるほら貝を勇ましく吹くのは、名物団員の大西君。

大きな身体ながら、両手で優しくほら貝を包み、力いっぱい吹くさまは、緊張感いっぱいの団員をなごませ、しっかりと送り出してくれます。

大西君のご両親は 地元でも有名な和菓子屋さん。

甘くておいしい和菓子が、大西君の柔らかさの素になっているのかも知れませんね。



三重県

新見市消防団 東部分団 女性部班長

棟長 三佐子



棟長さんは普段は認定こども園の園長先生、可愛い園児達に囲まれいつも若々しく輝いています。

持ち前の朗らかさとナイスボディで得意のダンスを踊れば皆うっとり!

婦人会員でもある彼女は、昨年12月に行われた婦人大会アトラクションでTRFの“サバイバルダンス”を、女性消防団員を含む10

人に指導しステージで披露しました。

「どうせやるなら楽しみながら。」といつも前向きな彼女に刺激されダンサー全員大いに楽しみ、おまけに少々ダイエット効果もあったとか…。

我々女性部団員は地域活動でも積極的に参画し盛り上げていかなければと、ますます張り切っている棟長さんです。



岡山県

沼田市消防団 本部 ラッパ長

木樽 哲也



ラッパ一筋12年。副ラッパ長を経て3年前より団本部のラッパ長へ就任。団本部のムードメーカーで、正副団長と総員約800名の指揮に当たるとともに、50名のラッパ隊の長として指揮、指導にあたっており、団行事の他にも地域の運動会等でラッパ吹奏を披露し、防火・防災を積極的に呼びかけています。普段は街の建具屋さんとして忙しく飛び回っています。現在、花嫁募集中です。

群馬県



片岡 敦弘 片岡 園子

片岡夫妻は平成20年4月に栗東市消防団に入団された夫婦消防団員です。夫の敦弘さんは長野県大町市（旧美麻村）で救護長（分団長）を経て、平成18年市町村合併により大町市第6分団長として任務遂行されていましたが、仕事の都合によりその翌年栗東市に移住されて来ました。居住地が変わっても消防団魂は消えることなく栗東市消防団に入団、妻の園子さんをご主人が火災現場や操法訓練で頑張っている姿でしか消防団を知らず、「仕事を持ちながら大変なボランティアだな！」という気持ちであったそうです。しかし、夫からの「山林火災や防災訓練で培った炊き出しや協力精神を消防団で活かしてみれば。」という誘いに入団を即断。以後、団員として多方面にわたって活躍していただいています。先般も夫婦で市民救急指導員の資格を取得され、一般市民への指導（普通救命講習会等）にも尽力いただいております。地域の防災リーダーとして大きく貢献されています。



政田 力

平成の大合併 消防広域化により再編成された嶺北消防組合坂井消防団。

再編成後、伝統ある「越前三国鳶隊」の魅力の虜となり演技者として入隊を希望。

入隊当初は、はしごに登ることもおぼつかない状況でありましたが、厳しい指導や隊員間の切磋琢磨により、その類稀なる素質を発揮しめきめきと上達。入隊後3ヶ月で初出演し、今では諸先輩方と肩を並べる程の腕前で切れのある演技を披露しています。

はしご上での演技は、すばやい動きと安全管理。消防団での現場活動と相通ずるものがあり、鳶隊活動を通して更なる精進に励んでいます。



谷本 ななえ

趣味はスポーツ全般という谷本さん。家庭の主婦であり、女性消防団として多忙な活動を極める中、市の放水大会ではメンバーの一員として優勝を勝ち取りました。

また、水泳のインストラクターの経験から消防学校等で水上安全法を指導するなど活躍は多方面です。

何事にも自らのスキルアップを意識すると語るその情熱は今後ますます期待する所です。



消防団の広場

岡山県



新見市東部分団
女性部 副部長

藤川 結子



「私たちの町の安心・安全を守るために」

私たちの管轄する地域は、典型的な少子高齢化の進行している中山間地域です。そんな地域だからこそ消防団の力が大切であり、頼りにもされていて「私たちの地域は私達で守ろう」と女性ならではの活動にとどまらず男性団員に教えていただきながら山火事の現場で筒先を持ち消火にあたったこともあります。

話は遡りますが、平成13年10月に全国女性消防操法大会に出場させていただいた体験を持つ7名はその後も強い絆で結ばれており、平成18年に女性消防団員募集の話があり7名迷うことなく入団しました。

その後女性団員を増やそうと、女性の集まりがあると聞けばお邪魔して加入のお願いをし現在25名となり女性部を立ち上げ活動しています。

主な活動内容を紹介します

まず、1月の出初式、式典は大変厳粛で身も心も引き締まり、凛とした気持で“さあ今年も頑張ろう”と強い使命感がわいてきます。

春の火災予防期間中には地区の方と共に消火栓からの放水訓練を行います。

地区の操法大会では我々女性団員は記録の回収、得点の集計等を担当します。

夏期訓練では早朝から男性団員とともに、各個訓練、部隊訓練等に汗を流します。

今年度の秋の火災予防期間中には幼稚園・小学校児童を対象に火災予防を啓発するペープサート(紙人形劇)を披露しました。ストップ・ドロップ・ロール(止まって・倒れて・転がって)を子供たちにも体験してもらい火の恐ろしさ、煙の恐ろしさを改めて認識してもらうことができインパクトのある啓発になったと思います。

また団員研修会や交流会、救命救急講習などに積極的に参加し自己のスキルアップをめざしています。

これからもより一層絆を強めながら私たちの町の安心・安全を守るなくてはならぬ女性消防団として努力していきたいと思っています。



平成24年度 全国統一防火標語

「消すまでは 出ない行かない 離れない」

編集後記

暦の上では、立春を過ぎましたがまだまだ寒いが続いています、春はもうすぐです。元気に乗り切っていきましょう。

先日、3月分放送のラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」の収録に立ち合いました。東日本大震災から2年というところで、菅原文太さんが出演され、被災地の消防団員の方と電話を通じてお話をされました。放送時間は地域によって違いますが、毎週土曜日又は日曜日のニッポン放送系列で、朝5：00～8：30までの間の放送開始となっていますので、皆様にも是非聞いて頂きたいと思います。詳しい放送時間につきましては、バックナンバーになりますが、「日本消防2012年4月号」の16ページに掲載されています。（日本消防協会のホームページからも閲覧できますのでこちらからもご覧いただけます。）

さて、今月号の口絵でご紹介しています、第12回消防団幹部候補特別研修が2月に日本消防会館で開催され全国各地から、男性団員の部及び女性団員の部がそれぞれ3日間で、男性の部は138名、女性の部が90名参加されました。

詳しい内容につきましては、次号の「日本消防」でご紹介しますが、全国の消防団の幹部候補の方々が、一堂に会し視察研修、講義、課題討議などを行ない、また意見交換会においては、全国規模で消防団員同士の繋がりができて、大変有意義な研修をされたのではないかと考えています。研修に参加された皆様、大変お疲れさまでした。
(K・S)

お詫びと訂正

日本消防2013年1月号掲載「消防団の広場」の香川県さぬき市消防団長のお名前表記に誤りがございましたので、関係各位の方々に対しまして深くお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

正…石川孝義 様 誤…石川 廣 様

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたく考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十六卷第二号
平成二十五年二月五日印刷
平成二十五年二月十日発行

編集人 川手 晃
発行所 財 日本消防協会
東京港区虎ノ門二一九一十六
電話 〇三(350)一四八一(代)

印刷所
東京都文京区湯島三二二一十二
日本印刷株式会社
電話 〇三(333)六九七二(代)

消防人の火災共済の補償が増額されました 「1000倍補償を1500倍補償にUP」

B型火災共済 (加入口数は5口から25口まで)

10口の場合 掛金1000円で
火災共済金 100万円を150万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)20万円を30万円に増額しました。
『掛金は、500円～2,500円(500円単位)で加入できます。』

C型火災共済 『加入口数は、最高200口』

火災共済金 2,000万円を3,000万円に増額しました。
風水雪害等共済金(全損で)400万円を600万円に増額しました。
※ 風水雪害等共済金とは、これまで災害見舞金としてお支払いしていたものです
※ 加入にあたり、組合員となっていたいただくために出資金が必要になります。



生活協同組合 全日本消防人共済会

事務局 (財)日本消防協会内 支部 都道府県消防協会内

消防互助年金

— 将来の自分の為の積立年金制度です —

消防互助年金は、消防団員・消防職員の皆さまの老後の安定と福祉の向上を図るために、(財)日本消防協会が、第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。



65歳まで積み立て可能な、公的年金の補完ができる制度です。

消防団の退団後・消防職の退職後も継続できます。

消防互助年金の説明に担当者がお伺いします。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

加入申込みは消防事務担当へ

問合せ先

- 各市町村の消防事務担当係
- 都道府県消防協会

(日本消防協会ホームページ)

- (財)日本消防協会 年金共済部
 - 生活協同組合全日本消防人共済会
- 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館 TEL.(03)3503-1481~5
<http://www.nissho.or.jp>